

# エフピコレポート 2019



株式会社 エフピコ

# CONTENTS

## ■企業プロフィール

## ■TOP MESSAGE「エフピコが実践する3つの価値創造」

### ■価値創造1：快適な食生活

### ■価値創造2：流通ネットワーク

### ■価値創造3：環境負荷低減

### ■価値創造を生み出すエフピコのバリューチェーン

## ■エフピコの ESG

G：ガバナンス

S：社会の中のエフピコ

E：環境への取り組み

第三者によるコメント／エフピコのあゆみ



五、四、三、二、一、  
社訓  
責任 和 忍 健  
信 康  
（かきん）

## エフピコは食品容器の製造・販売を通じて 人と人、人と社会、人と環境を繋がります

エフピコが展開する食品容器の製造・販売事業には、消費者・流通業者・販売業者と協働で実践する地上資源の循環型リサイクル活動や障がいのある人材を活かした事業などが組み込まれています。食品容器の活用により様々な食のシーンにおいて人と人を繋げるだけでなく、事業を通して人と社会、そして人と環境を繋げることで、豊かさの創造と持続可能な社会の構築に貢献していくことを目指し、それらをつつ実践しています。

## 食品容器の製造・販売事業におけるエフピコの 現場主義・顧客第一主義

人々のニーズや社会の価値観などに沿った真に有用な製品を生み出し続けることを目指し、エフピコは「現場主義」と「顧客第一主義」を貫くことを掲げています。食品容器が使用される現場、販売される現場、そして製造・保管・輸送・納品される現場において重要なことは何か、求められることは何かを考え続けることにより、たゆまぬ進歩を続けています。結果としてそれが、「最も高品質な製品をどこよりも競争力のある価格で必要な時に確実にお届けする」という営業目標を達成することに直結しています。





# 企業プロフィール

## 会社概要

商 号 株式会社エフピコ  
 設 立 1962年(昭和37年)7月  
 代 表 者 代表取締役社長 佐藤 守正  
 資 本 金 131億5,000万円  
 社 員 数 848名(エフピコグループ: 4,439名)  
 事業内容 ポリスチレンペーパーおよびその他の合成樹脂製簡易食品容器の製造・販売並びに関連包装資材等の販売  
 福山本社 〒721-8607 広島県福山市曙町一丁目13番15号  
 TEL 084-953-1145 FAX 084-953-4911  
 東京本社 〒163-6036 東京都新宿区西新宿六丁目8番1号  
 新宿オークタワー(総合受付36階)  
 TEL 03-5320-0717 FAX 03-5325-7811



福山本社(広島県福山市)



東京本社(東京都新宿区)



ロゴに使用しているFPは創業当時の社名である「福山パール紙工」に由来しています。

## エフピコグループ会社

### 製造

株式会社エフピコ北海道  
 株式会社エフピコ山形  
 株式会社エフピコ寒河江  
 株式会社エフピコ茨城  
 株式会社エフピコ下館  
 株式会社エフピコ筑西  
 株式会社エフピコ中部  
 株式会社エフピコ富山  
 株式会社エフピコ笠岡  
 株式会社エフピコ箕島

株式会社エフピコ福山  
 株式会社エフピコ神辺  
 株式会社エフピコ佐賀  
 株式会社エフピコ南郷  
 株式会社エフピコ鹿児島  
 エフピコダックス株式会社  
 エフピコ愛バック株式会社  
 エフピコアルライト株式会社  
 エフピコグラビア株式会社  
 西日本ペットボトルリサイクル株式会社



エコペット工場、リサイクル工場、配送センター、ピッキングセンター等が集まった拠点(左: 関東・右: 中部)

### 物流

エフピコ物流株式会社  
 株式会社アイ・ロジック  
 エフピコイーストロジ株式会社  
 エフピコウエストロジ株式会社

### 販売・その他

エフピコ商事株式会社  
 エフピコチューパ株式会社  
 エフピコダイヤフーズ株式会社  
 エフピコインターバック株式会社  
 エフピコイシダ株式会社  
 エフピコ上田株式会社  
 エフピコみやこひも株式会社

## 主な製造・販売製品

### 発泡製品

ポリスチレンを材料とした製品類。精肉などは発泡トレーの上に載せ、ラップをして販売するスタイルが一般的です。寿司箱や弁当箱などの製品としても馴染みです。



#### 精 肉

精肉用のトレーは最もスタンダードなエフピコ製品のひとつ。売り場の様々なニーズに合わせることでできる汎用性の高い製品です。



#### 寿 司

一人前から数人前まで、寿司用の容器はエフピコの定番製品です。特別な日を演出する色鮮やかな容器も豊富です。



#### 弁 当

様々な素材を使い、盛り付けし易いよう、また食べ易いように仕切りを入れた容器です。軽さと強度を兼ね備えているほか、見た目の楽しさも演出しています。

### 高性能製品

耐熱、耐寒、耐油、耐酸、高い透明度、多機能利用など、高い機能性に特化した製品も製造しています。



#### 電子レンジ対応

コンビニエンスストアなどでも馴染みの深い、そのまま電子レンジで温めることができる容器も多種あります。レンジアップ後、持っても熱くない断熱性のある素材も使用しています。



#### 中皿付き容器

中皿を仕切りとして蓋を付け、おかず(上)とご飯や麺(下)などとのセット販売に適した製品。丼ものや麺メニューなどに最適です。



#### スクリュキャップ容器

食品に限らず、様々な小物を入れるための多目的容器として活用されています。透明で密閉性が高いため、その用途は多岐にわたっています。

### 透明容器

食品容器の蓋などで数多く使用されています。透明で中身が見えるため、消費者の方々に安全・安心を提供できます。



#### 鮮 魚

付加価値を付けた刺身などには蓋付きの透明容器も用いられています。陳列効率の向上や商品の劣化を防ぐ役目も果たしています。



#### 青果物

主に野菜など採りたてのみずみずしさをそのままに販売するための容器です。お客様が新鮮さを確認できるよう、全体に透明素材を使用しています。



#### 菓 子

団子、まんじゅう、ようかんなどの和菓子やドライフルーツなどのスナック用として使われています。商品の形に合わせた形状とすることで、型崩れを防いでいます。

### その他

たまごパックや袋形状のものなど、食品流通において必要とされる容器やパッケージの多くを製造・販売しています。



#### 紙 容 器

紙を使用した蓋付きの弁当容器やテイクアウト用容器です。和の雰囲気演出する時など、食シーンに応じてお使いいただけます。



#### 鶏 卵

透明たまごパックの生産も行っています。再生PET原料を利用したリサイクル製品です。



#### フィルム製品

野菜、くだもの、生花などの包装用フィルムです。商品の鮮度を確認でき、商品の形状にかかわらず包装できる利便性が重宝されています。



# エフピコが実践する3つの価値創造



代表取締役社長  
**佐藤 守正**

エフピコは食品流通に欠かせない食品容器の製造を通して、社会全般に3つの価値を提供しています。

ひとつには食品容器そのものが生み出すたくさんの付加価値です。食品容器は食品の鮮度を維持し、衛生的に保つという基本的な価値を持っています。さらに扱い易さ、熱に強い電子レンジ対応など、食品を販売するスーパーマーケット様やそれを購入する消費者の方々に多くの利便性を提供しています。

また繁忙期でも災害時でも食の流通は待ったなしです。1年365日途切れることなく食品を食卓にお届けするために、容器を提供し続けるインフラを構築し、お客様が必要な製品を必要となる時に必要とする分量お届けしています。

そしてエフピコでは1990年に使用済み食品容器のリサイクルをスタートして以来、30年近くにわたってその活動を発展させてきました。食品容器は回収ボックスに入れていただければ「ごみ」ではなく「資源」となります。今後とも循環型リサイクルにより持続可能な社会を目指してまいります。

私たちエフピコグループが提供している3つの価値、そしてそれを実現している体制について、このレポートを通してご理解いただければ幸いです。

## 快適な食生活



エフピコ製品が毎日の食生活で提供する  
様々なベネフィット

|         |        |       |
|---------|--------|-------|
| 鮮度保持    | 保温性    | 耐熱・耐寒 |
| 電子レンジ対応 | 液体漏れ防止 | 個食対応  |

誰もが食品の鮮度、適温、適量、美味しさなどを  
享受できる環境づくりをエフピコはお手伝いしています。

## 流通ネットワーク



途切れることが許されない日々の食品流通で  
エフピコが果たす責務

|                 |                 |                    |
|-----------------|-----------------|--------------------|
| 高精度の計画<br>生産・配送 | 全国に配置した<br>生産工場 | 倉庫機能と物流<br>機能を持つ拠点 |
|-----------------|-----------------|--------------------|

常に安定した製品の供給を実現するインフラをエフピコは  
構築しています。

## 環境負荷低減



ステークホルダーと共に展開する  
持続的な環境活動

|                  |           |
|------------------|-----------|
| 4者一体のエフピコ方式リサイクル | 環境対応製品    |
| 全国3カ所のリサイクル拠点    | 工場見学・環境教育 |

使用済み食品容器のリサイクルを経済活動とすることで  
持続的に展開できる環境保全を行っています。



## エフピコが実践する3つの価値創造

エフピコの企業力のひとつは、提案力です。市場のニーズを探り、ニーズに応える様々な機能を持つ食品容器を開発し、具体的な売り場づくりを提案します。求められているものを提供し食生活を豊かにすること。それがエフピコが実践しているひとつ目の価値創造です。

「現場主義」による徹底した市場リサーチ

製品開発部門で利便性・有用性等のアイデアを製品化

「コ・クリエーション」型営業による  
食品メーカー様等との協働による商品開発

製品提案会や「エフピコフェア」での提案

エフピコの食品容器を使用しスーパーマーケットなどの  
ユーザー様が食品を陳列

食を楽しむ快適な生活



## 快適な食生活

冷たい食材も  
温かい食材も  
風味を  
損なわない



時間に追われて  
いる時も電子レンジで  
美味しい料理が  
すぐにつくれる



一人にも大人数にも  
適した量を  
購入できる

産地から食卓まで  
新鮮さを長い時間  
維持できる

食べ物を清潔に  
食卓まで運ぶ  
ことができる





## エフピコが実践する3つの価値創造

## 快適な食生活

## 「現場主義」による徹底した市場リサーチ

エフピコが“現場主義・顧客第一主義”により市場ニーズの調査に力を入れ続けているのは創業以来の伝統です。食品販売の現場に行き、そこでの様子を見続ければ、何が求められているかが自ずと見えてくる—これは決して目新しい考え方ではありませんが、大切なのはこれを徹底してやること。“現場百遍”は営業スタッフの共通認識です。何度でも繰り返し現場に行き、観察し、現場で働いている人たちから話を聞き、食品販売の現場ではどんなことに困っていて、どんなことが求められているのかをつかむこと。この営業スタッフの地道な努力がエフピコの製品開発の起点になっています。



## 製品開発部門で利便性・有用性のアイデアを製品化



営業スタッフが持ち帰ってきた情報やアイデアは容器開発部へと伝えられ、ここでアイデアが練り上げられて利便性や有用性という無形のイメージを容器という形にしていきます。例えばお弁当容器の蓋が開けにくいという意見を踏まえ、蓋をどのような形状にすれば密閉性を保持しつつ開けやすくできるかを考えます。容器開発部のスタッフは過去の経験なども踏まえ、課題解決のための理想的なデザインを製品開発部へと伝えます。

製品開発部はCADを使って容器の設計を行うエンジニアの集まりであり、デザインを基に限りなく理想に近い容器の設計図を起こします。既にある工夫を他の容器に応用する程度のもからフルモデルチェンジのような大掛かりのもの、さらに時には素材から見直さなければならぬこともあります。ひとつの製品開発には通常2カ月から半年以上の時間が必要ですが、エフピコでは毎年数百点のモデルチェンジを行っています。

こうしてできた新しい製品もすぐに食品販売の現場で使われるわけではありません。営業スタッフがお客様に提案し、その価値に納得をしていただいてから初めて使用開始となります。こうして製品は現場に並び、その現場の声から再び新しいエフピコの製品がつけられるのです。



- 1 製品開発の拠点整備を目的として2014年にエフピコ総合研究所が造られました。機能性と快適さを兼ね備えた価値創造の拠点となっています。
- 2 アイデアを実用的な形にするための会議が日々製品開発部でおこなわれています。
- 3 CADで容器の設計をする製品開発部スタッフ。長い試行錯誤の末に完成品に辿り着きます。



## エフピコが実践する3つの価値創造

快適な食生活

## 「コ・クリエーション（共創）」型営業による他社との協働での商品開発

エフピコが実践するコ・クリエーション型営業とは、「食品メーカー様やベンダー様と協力し合い」展開する営業です。「こんな風に容器を使えば役に立つ」と考えるエフピコと、「こんな容器があれば便利」と感じる食品メーカー様との協働により相乗効果を生み出すことを狙いとしています。例えば、「サラダにプラスして肉やライスなどが一緒にパッケージされていれば嬉しい」という現場の声があったとします。そこで肉やライスに合うソース・ドレッシングを持つ食品メーカー様と協働し、サラダと肉やライスを一緒に容れることのできる容器を開発し、ソース付きのボリューム感のある“ごちそうサラダ”をスーパーマーケット様に提案する。こうした形態の営業をエフピコでは数多くの食品メーカー様やベンダー様と展開しています。



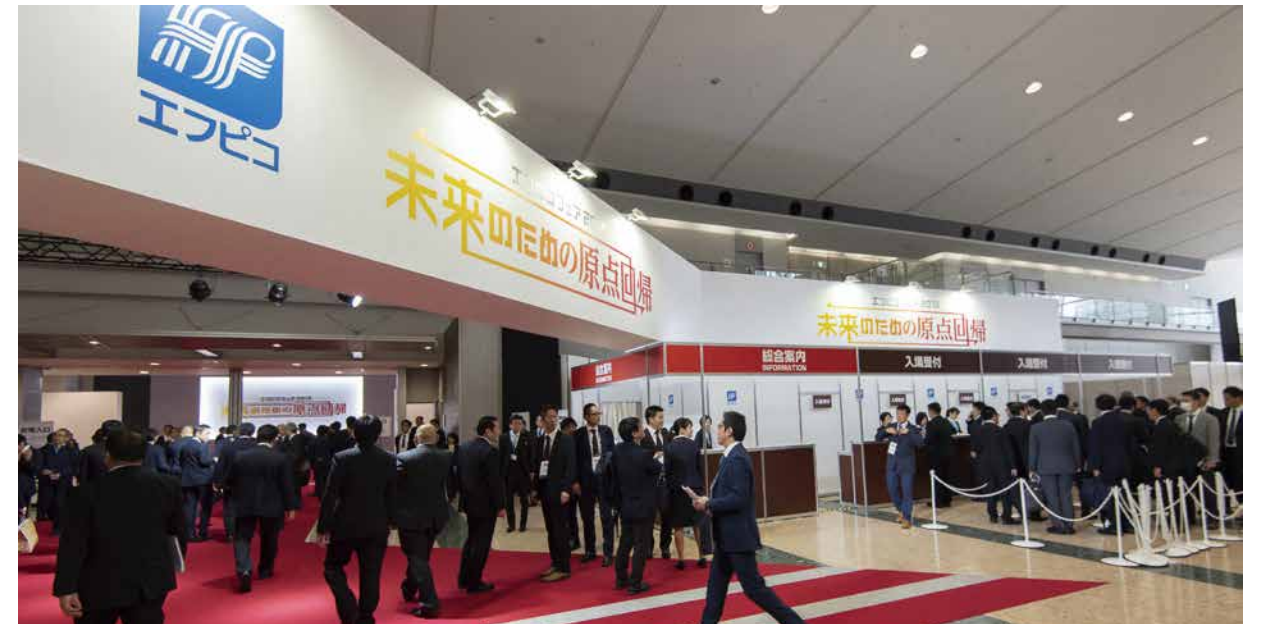
## 製品提案会や「エフピコフェア」での提案

エフピコでは定期的にスーパーマーケット様に対し、自社内の設備を使用して製品提案会を開催しています。分析に基づいて製品を提案し、提案する製品に実際に食品を入れて陳列し、売り場を再現した売り場の提案をキッチンスタジオで行います。

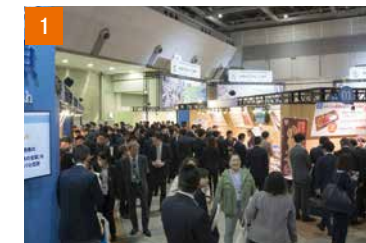
さらに年に一度大規模に開催するエフピコの総合プレゼンテーションとも言えるのが「エフピコフェア」です。毎年3月に東京ビッグサイトを会場として開催するこのフェアには、3日間で1万5千人近いお客様をお迎えしています。エフピコフェアの最大の特徴は冷惣菜、温惣菜、米飯、精肉、鮮魚、野菜、フルーツなどの多彩な売り場の再現・展示による提案です。エフピコ製品を活用して販売数を上げた成功事例の展示、コ・ク



- 1 大きな会の場合は100人以上のお客様が参加されます。
- 2 キッチンスタジオを配備しているのは東京本社、大阪支店、広島営業所の3カ所。
- 3 キッチンスタジオでは売り場を再現。実際に食品を容れて陳列していただくことでお客様に製品のメリットを体感していただけます。
- 4 製品をご覧いただいた後は個別のミーティングへと移行します。



リエーション型営業で創造した商品の提案が華やかに分かりやすく展開されています。グループ会社による資材の紹介や物流、環境関連の展示などエフピコの全てがそこにあります。全国からたくさんのお客様をお迎えし、エフピコを丸ごとご理解し、ご利用していただくためのイベントです。



- 1 2019年3月27日から3日間開催のフェアにも本当にたくさんのお客様にお越しいただきました。
- 2 フェア内の展示は全て撮影OKで、役に立つ情報は全てお持ち帰りいただいています。
- 3 エフピコ製品を使ってレンジアップした食品の試食も製品をご理解いただく手法のひとつとなっています。
- 4 お帰りの際には気になった新製品をお持ち帰りいただいています。



## エフピコが実践する3つの価値創造

## 快適な食生活

## 美味しいものの組合せや時短で美味しくを実現

メニューの組合せで美味しさや食感を生かす

## MFPイノベ



ご飯類と汁気の多いおかずを別々に包むことによりそれぞれの美味しさや食感を損ねることなく提供できます。消費者が求める「煮物弁当」という新しいジャンルを実現しました。ご飯とおかずを様々な組み合わせることができ、豊富なメニューを可能にします。

生から惣菜の  
MFPレント

生素材をバックして、食べる直前に電子レンジで容器のまま加熱できるメニュー・商品づくりをお手伝いする容器です。食感、味わい、食材のうまみを最大限生かし、出来立ての良さを消費者の皆様にお届けします。



## 食卓で蓋を開けるまで美しく

## 広い天面と高い透明性

蓋の天面を広くするとともに透明性の高い素材とすることで、中身をはっきりと見せます。

## 中身のズレ防止

容器の底の部分に凸凹を施し、配置した食品が運搬時にズレないようにしています。



## 液漏れ防止

中身に液体が含まれる商品の場合、蓋にリブを付けることで容器からの液漏れを防ぎます。

## 温かいものを安全にお届け する製品類 (オリジナル素材)

中味はアツアツでも手で持っても熱くない

## マルチFP



軽量の発泡素材でありながら電子レンジの加熱に適した耐熱性(110℃)と、耐寒性を併せ持ちます。断熱性、保温性にも優れ、電子レンジで加熱しても食品容器の外側は70℃以下。中身の食材が高温でも安心して手で持つことができます。

シャープなデザインを可能にする

## マルチSD



電子レンジの加熱に適した耐熱性(110℃)に優れている製品です。成形性に優れた非発泡素材のため、複雑でシャープな形状のデザインを施すことができます。また積み重ねても場所を取らないという利点もあります。

耐熱性と透明性を両立させた

## 透明PP



耐熱性・耐油性に優れた透明容器です。電子レンジで加熱しても変形などに強い容器です。温惣菜をお皿に盛り替えることなく、そのまま電子レンジ加熱できます。また、PP素材はMCT油脂等により脆化せず、破損しません。

強度と耐熱性を高めた

## OPET



PETを縦・横に延伸して(2軸延伸)分子を配向させることで、強度と耐熱性をアップしています。耐油性に加え透明性を維持したまま従来APET素材の耐熱温度を60℃～80℃まで向上させました。エフピコが世界に先駆けて開発した食品容器の材料シートです。



## エフピコが実践する3つの価値創造

食の流通に休みはありません。スーパーマーケットやコンビニエンスストアから食品が消えることがあってはならず、その食品を包み運ぶ食品容器を安定して市場に供給することは、食品流通業界のみならず消費者の方々から課せられた使命でもあると考えています。

このためエフピコは工場を全国に配置し、高精度のサプライ・チェーン・マネジメントを行う中で自社物流で製品等を輸送しています。製品の製造、配送、販売、さらにはリサイクルまでを自社のコントロールの下で展開し、効率的かつスピーディ、そして確実に製品をお客様にお届けしています。タイムリーに絶えることなく製品をお届けすること、これが食の流通ネットワークの中でエフピコが実践している2つ目の価値創造です。



## 流通ネットワーク

繁忙期で  
欠品しない、  
閑散期で余らせない  
サプライ・チェーン・  
マネジメント

全国規模の  
生産・配送の体制により  
お客様からの発注に  
タイムリーに対応

空になった  
帰り便を利用して  
リサイクル事業を  
展開



人手不足に  
対応したロボット化や  
自動化プログラムで  
ネットワークを構築

災害時でも  
倉庫機能を維持する  
ための非常時対応

全国に  
効率的に  
配置した工場





## エフピコが実践する3つの価値創造

## 流通ネットワーク

## 高精度の計画生産・配送



エフピコの約1万種類にも及ぶ製品の高精度の計画生産と製造及び製品のタイムリーな配送を実現しているのはサプライ・チェーン・マネジメント（SCM）システムです。SCMはいわばエフピコの頭脳であり、コンピューターの計算能力と多くの社員のノウハウ・経験の両輪で構築されています。

営業スタッフの販売予測値、生産に関わる過去の実績データ、生産の現場で働くスタッフの経験値など膨大な情報を基に最適な生産と物流の計画を立て、お客様からの急なオーダー、予期せぬ市場の需要増加、災害など不測の事態にも安定した供給を実現します。

最適な生産・物流計画は、無駄を極力無くすことでもあり、生産と物流活動におけるCO<sub>2</sub>排出の削減にも大きく寄与しています。

生産におけるCO<sub>2</sub>排出を最低限に

余分に生産しない、必要以上に保管しない

繁忙期で欠品しない、閑散期で余らせない

時間と距離において最も効率良いルートで配送

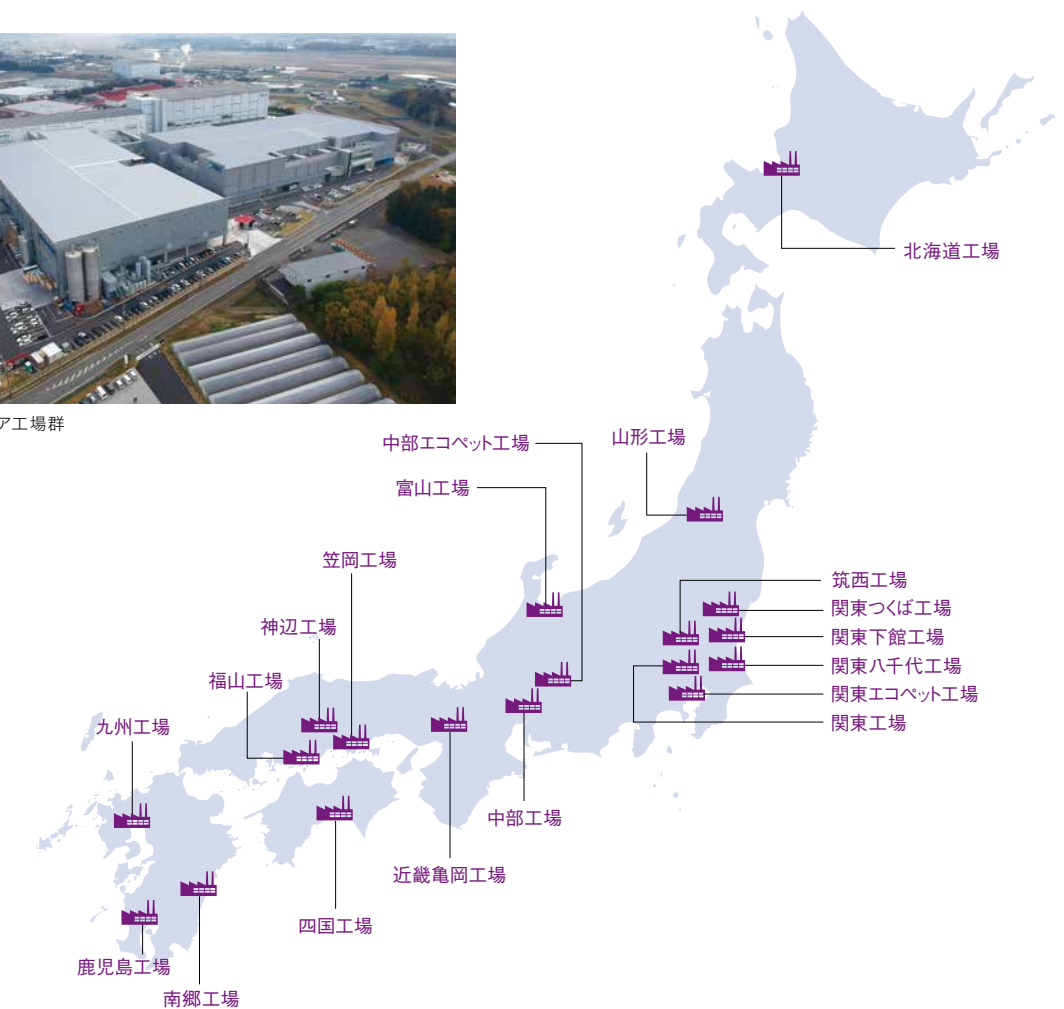
空になった帰便を使用済み製品回収に活用

## 全国に配置した生産工場

生産工場は全国に19カ所。SCMによる生産計画を実行するための施設と設備の充実を進め、関東、中部、福山の3カ所はリサイクルと物流関係の施設も含む大規模生産拠点となっています。



関東八千代エリア工場群



各工場は見える化によりユーティリティ（主に電力）の効率化を実践しています。その必要性が生じた設備はリニューアル工事をおこない、エネルギー効率の最適化を心掛けています。ソフト面でも生産スタッフを対象とした“技能塾”や“ものづくりプロジェクト”など様々なプログラムにより作業の効率化を実現。さらに近年では将来的に大きなリスクとして懸念される労働力不足に対応すべくロボット化も推進しており、10カ所の工場において製品の梱包作業でアームロボット19台を採用しています。



関東エコペット工場で生産された透明容器の素材となるシート。使用済みPETボトルが食品容器に生まれ変わります。



生産工場の内部。可能な限り自動化され、多くの生産ラインが同時に稼働しています。



出来上がった製品は人の手と目により検品されます。機械には頼れない大事な工程。



透明容器の自動包装機。24時間対応で稼働しています。



包装した容器を箱に詰めるのもロボットにより自動でおこないます。



大規模生産拠点では、梱包された製品はコンベアで同敷地内の物流センターへと運ばれます。



## エフピコが実践する3つの価値創造

## 流通ネットワーク

## 倉庫機能と物流機能を持つ拠点

エフピコの物流拠点のほとんどは生産工場と同じ敷地内かその近辺に配置されており、時間とエネルギーの効率化を生んでいます。

さらにエフピコによる物流事業で特徴的なのは、倉庫業と運送業の両方を展開していることです。これにより製造した製品をどこにどれだけ保管しておき、それをいつどこへどのようにして配送するかを一括して管理することが可能となり、お客様への納品の全プロセスを見える化できます。物流事業はただ単にモノを届けるだけの単純な作業ではなく、顔の見えるお客様に対するサービス業です。自社管理による倉庫業と運送業の両方を展開することによりサービスの質を確実なものとし、さらに自社で立てた計画による業務内容を自らの目で確認することでサービスの向上を継続的に発展させています。



ピッキングセンターと配送センターはほとんどの場合、同じ敷地内に配置されています。これも自社物流ならではのことであり、業務において大きな相乗効果を生み出しています。



## ●ピッキングセンター(倉庫業)

北海道ピッキングセンター(北海道石狩市)  
東北ピッキングセンター(宮城県大衡村)  
関東ピッキングセンター(茨城県八千代町)  
茨城ピッキングセンター(茨城県八千代町)  
八王子ピッキングセンター(東京都八王子市)  
新潟ピッキングセンター(新潟県長岡市)  
中部ピッキングセンター(岐阜県輪之内町)  
関西ピッキングセンター(兵庫県神戸市)  
福山ピッキングセンター(広島県福山市)  
広島ピッキングセンター(広島県廿日市市)  
九州ピッキングセンター(佐賀県吉野ヶ里町)

## ●配送センター(運送業)

北海道配送センター(北海道石狩市)  
東北配送センター(山形県寒河江市)  
関東配送センター(茨城県八千代町)  
東京配送センター(千葉県船橋市)  
八王子配送センター(東京都八王子市)  
東海配送センター(静岡県長泉町)  
中部配送センター(岐阜県輪之内町)  
関西配送センター(兵庫県神戸市)  
福山配送センター(広島県福山市)  
九州配送センター(佐賀県吉野ヶ里町)



- 1 関西配送センターと関西ピッキングセンターを擁する建屋の屋上には太陽光パネルを設置。
- 2 福山市箕沖町の物流拠点はクロストックセンターを擁しています。
- 3 九州地方の物流拠点は佐賀県吉野ヶ里町に配置されています。



- 4 岐阜県に配置の中部配送・ピッキングセンターは福山、関東と並ぶ巨大施設。
- 5 北海道の物流拠点では寒冷地仕様の様々な設備が導入されています。
- 6 関東の巨大商圏に対応する八王子市の物流拠点。





## 流通ネットワークを支える様々な設備・施策

### ルートプランナー



直近6カ月の配送データをベースデータ化して最も効率的な配送ルートを作成し、正確で確実な配送と効率的な配車計画を立案します。

### R・Dチェックシステム



配送のスタートから納品までの状況をドライバーがQRコードをスキャンし、見える化するシステム。配送時間の正確性アップの基礎データとしてフィードバックされます。

### ロケーションマネジメントシステム



ケースの設置場所を固定しない自由度の高い方式により、出荷時の時間と労力を効率化しています。グループ全体で300万ものケースを保管しているエフピコでは必要不可欠なシステムです。

### 非常用発電設備



非常用発電設備を設置し、自然災害などの非常事態に対応しています。全国の自社在庫拠点の97%に設置しており、72時間の電力供給が可能となっています。

### 音声ピッキング



集めるべきアイテムの指示を機械からヘッドフォンで受けることで目も手もフリーな状態となり、スタッフの高い集中力を保ちます。100万分の0.3件のミス発生率という驚異的な成果を生んでいます。

### クロスドックセンター



倉庫同士をソーターで連結し、クロスドック1カ所で積み込みを行っています。出荷に掛かる時間やコストを大幅に削減しています。

### 物流と包材問屋が連携した拠点が誕生

2018年10月に竣工した広島営業所はグループ会社であるエフピコイシダ株式会社（包材問屋）、エフピコ物流株式会社（運送業）、株式会社アイ・ロジック（倉庫業）の3社と同じ建屋に同居しています。1階はアイ・ロジックの配送センター、2階は広島営業所とエフピコイシダの事務室、3階はエフピコイシダの倉庫兼ピッキングセンターで、販売に加えて包材問屋と物流の機能も併せ持つ拠点となったことにより、タイムリーで細やかなサービスをお客様に提供しています。



中四国営業第1部 広島営業1課  
マネージャー 秋田厚志

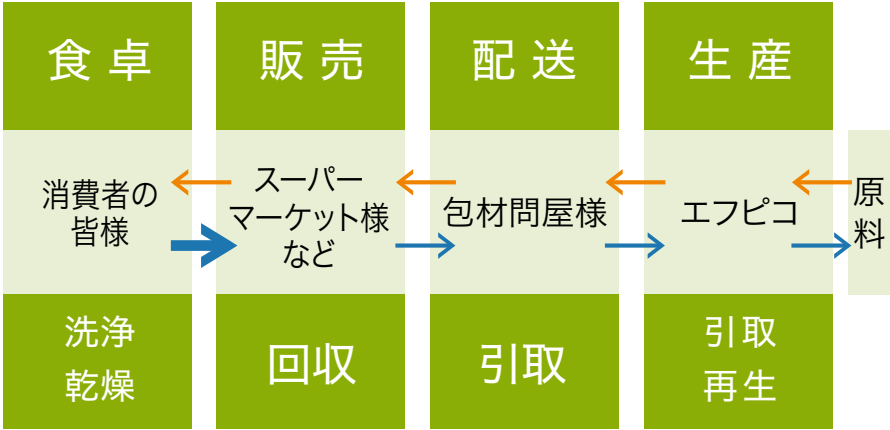
エフピコが持っている全国規模の太い商品流通のパイプを補完する細いネットワーク、つまり機動力のある物流サービスを提供することができれば、お客様の要望に細やかに対応することができます。たくさんのスーパーマーケットが存在する大きな商圈に数カ所の問屋しかなければ、どうしてもサービスは行き届かなくなるでしょう。メーカーであるエフピコが包材問屋の方々と協働して流通ネットワークの充実に力を入れているのは、“顧客第一主義”に他なりません。



エフピコが実践する3つの価値創造

エフピコが社会に提供している3つ目の価値である地上資源の循環による環境負荷の低減は、食卓（消費者の皆様）、販売（スーパーマーケット様など）、配送（包材問屋様）、生産（エフピコ）の4者が一体となった非常にユニークな活動です。1990年、6カ所のスーパーマーケットの回収ボックスからスタートしたエフピコ方式のリサイクルは、たくさんの方々の協力を得て現在回収拠点は9,200カ所となりました。地球環境を守りたいというたくさんの方々の思いが草の根的な運動となって繋がっていった結果です。持続可能な社会の構築を目指し、この活動をさらに大きく育てていきます。

4者一体のエフピコ方式のリサイクル



環境負荷低減



地上資源  
循環を実現



使用済み容器の  
リサイクル（再製品化）  
により確実に  
CO<sub>2</sub>を削減



リサイクル製品を  
販売することで  
経済的に持続可能な  
活動として展開

自社物流の帰り便  
（空き荷台）を  
有効利用して回収



資源回収により  
海と陸の  
環境保全



## エフピコが実践する3つの価値創造

## 環境負荷低減

## 4者一体のエフピコ方式リサイクル



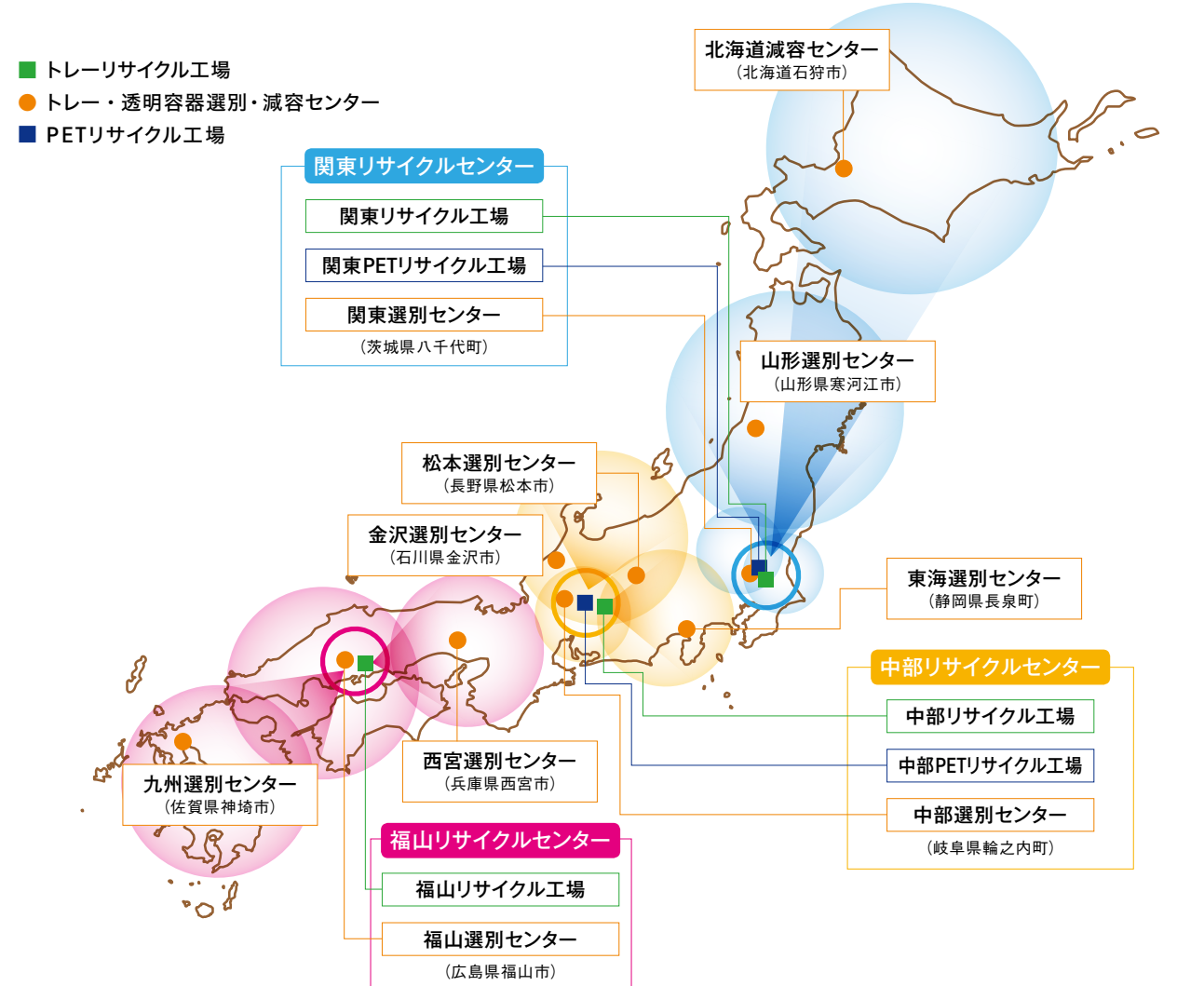


## エフピコが実践する3つの価値創造

## 環境負荷低減

## 全国に展開するリサイクルの拠点とネットワーク

- トレーリサイクル工場
- トレー・透明容器選別・減容センター
- PETリサイクル工場



包材問屋様で一時保管された使用済み容器はエフピコ物流の納品後の荷台が空になった帰り便に載せて全国に配置した選別センターやリサイクルセンターへと運ばれます。新しい容器の原料へと再生するリサイクル工場は関東、中部、福山の3カ所です。ひとつ数グラムの容器が毎日数十トンリサイクルされ、食品容器へと生まれ変わっています。

- 1 福山選別センターへと運ばれた使用済み発泡トレー。毎日数十台ものトラックが到着します。
- 2 透明容器へと再生される使用済みPETボトルのベール。関東と中部のPETリサイクル工場で透明容器を製造しています。
- 3 最新の設備を持つ関東PETリサイクル工場。2018年に稼働開始しました。

## エコトレーとエコAPET・エコOPET

スーパーマーケットなどで回収されたPSP(発泡ポリスチレン)を原料とした食品容器。肉、魚、野菜などの販売で多用されています。



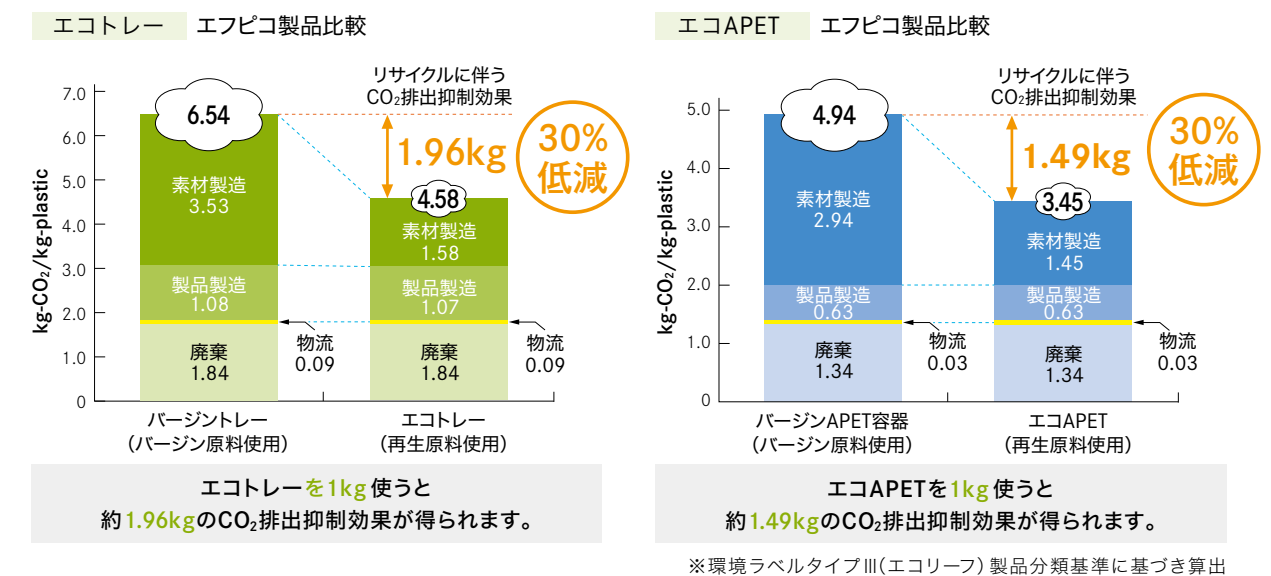
エコトレー



スーパーマーケットなどで回収された透明容器やPETボトルをリサイクルし、再び透明容器に甦らせています。蓋と一体型の容器や蓋のみとしても活用されています。



エコAPET・エコOPET

エコリーフ基準をベースにしたバージン製品とリサイクル製品のCO<sub>2</sub>排出比較2018年度に削減したCO<sub>2</sub>の量

約13.5万トン

お客様であるスーパーマーケットなどの方々にCO<sub>2</sub>負荷の低いエコ製品を選んでいただくことにより、社会全体が排出するCO<sub>2</sub>が大幅に削減します。



## エフピコが実践する3つの価値創造

## 環境負荷低減

## リサイクル活動拡大に向けたPR



## ポスターの掲出

消費者の方々に向けた啓発ポスターを制作しています。スーパーマーケット様に協力をいただき、店内などに掲出しています。2018年度にはタレントのLiLiCoさんを起用してアピールしました。

## ユーザー様との協働

スーパーマーケット様での回収拠点の強化や店舗内イベントスペースでの各種活動を行っています。



## 工場見学

リサイクル工場の見学には毎年約2万人の方々をお迎えしています。回収ボックスに入れた使用済み容器がリサイクルされる様子を間近でご覧いただけます。ぜひお越しください！



**工場見学の申し込み受付** 見学受入日時:月～金(祝日を除く)9:00～16:00(一部施設を除く)ホームページからもお申込みいただけます。

<リサイクル工場> 選別された容器が再生原料になるまでをご覧ください。

| 工場名                                | 所在地                            | 問い合わせ先                 | 1団体あたり最大受入人数 |
|------------------------------------|--------------------------------|------------------------|--------------|
| 関東リサイクル工場(関東PETリサイクル工場・関東選別センター併設) | 〒300-3561 茨城県結城郡八千代町大字平塚4448   | 関東リサイクル工場 0296-48-0400 | 120名         |
| 中部リサイクル工場(中部PETリサイクル工場・中部選別センター併設) | 〒503-0231 岐阜県安八郡輪之内町南波字村東511-5 | 中部リサイクル工場 0584-68-2041 | 60名          |
| 福山リサイクル工場(福山選別センター併設)              | 〒721-0956 広島県福山市箕沖町127-2       | 福山リサイクル工場 084-957-2301 | 130名         |

<選別センター> スーパーマーケットなどから回収された容器を選別する様子をご覧ください。

| 工場名      | 所在地                                 | 問い合わせ先                 | 1団体あたり最大受入人数 |
|----------|-------------------------------------|------------------------|--------------|
| 山形選別センター | 〒991-0061 山形県寒河江市中央工業団地162番地        | 山形選別センター 0237-85-3645  | 40名          |
| 東海選別センター | 〒411-0934 静岡県駿東郡長泉町下長窪八反田307-1      | 東海選別センター 055-980-4571  | 20名          |
| 松本選別センター | 〒390-0852 長野県松本市大字島立2267番地          | 東京本社環境対策室 03-5325-7809 | 15名          |
| 金沢選別センター | 〒920-0376 石川県金沢市福地町北204番地22         | 東京本社環境対策室 03-5325-7809 | 15名          |
| 西宮選別センター | 〒651-1431 兵庫県西宮市山口町阪神流通センター 1丁目98-2 | 西宮選別センター 078-907-1288  | 45名          |
| 九州選別センター | 〒842-0015 佐賀県神埼市神埼町尾崎3032-1         | 九州選別センター 0952-51-1028  | 50名          |

見学プログラムの一例  
(計:約90分)

1. リサイクルの流れの説明(10分)工場見学ルームで食品容器がリサイクルされるまでの流れを説明します。
2. リサイクル工程の見学(30分)容器が運ばれてくるところからベレット(トレーの材料)になるまでをご覧ください。
3. プレゼンテーション(25分)エフピコが行っている食品容器のリサイクル事業を詳しく説明します。
4. 説明ビデオ(15分)プレゼンテーションで説明した内容をまとめたビデオをご覧ください。
5. 質問タイム(10分)見学者からの様々な質問にお答えします。

## エフピコ方式リサイクルを支える障がいのある社員



回収された使用済み容器をリサイクル工場へと運ぶ前には、必ず人の手による選別などの作業が必要となります。高い集中力を必要とするこれらの作業は障がいのある社員が行っています。発泡トレーの選別工程では白と色柄の仕分けや不適品の除去、透明容器の選別工程では機械が容器の素材を識別して仕分けする前の一列化や不適品除去を行っています。



- 1 使用済み発泡トレーの選別作業。流れてくるトレーを瞬時に仕分けします。
- 2 使用済み発泡トレー選別ライン
- 3 使用済み透明容器の一列化作業
- 4 透明容器一列化作業ライン

## リサイクル事業の成果と対外的な評価

|                           | 発泡トレー     |             | 透明容器     |            | PETボトル    |            |
|---------------------------|-----------|-------------|----------|------------|-----------|------------|
|                           | 回収量       | 枚数          | 回収量      | 枚数         | 回収量       | 本数         |
| 2018年度                    | 6,446t    | 16億1,150万枚  | 2,284t   | 2億2,840枚   | 4万2,260t  | 16億9,040本  |
| 累計<br>(1990年～<br>2019年3月) | 14万5,089t | 362億6,750万枚 | 1万6,458t | 16億4,580万枚 | 21万2,549t | 78億1,362万本 |

※発泡トレー: 4g/枚、透明容器: 10g/枚、PETボトル: 25g/本で計算(2016年度より変更。それ以前は30g/本で計算)。

今までに節約した地球資源

石油の量:  
6億9,874万リットル

200L  
ドラム缶  
約349万本分

今までに節約した社会的コスト

ゴミ回収費:  
約702億円

回収車  
約281万台分

今までに回収した量

東京ドーム  
約61.5杯分



エフピコのリサイクル事業は国や自治体からの評価を受けています。「3R」「エコマーク」「エコ・ファースト企業」など、環境に関するキーワードを冠した賞の授与または認定を受け続けています。



# 価値創造を生み出すエフピコのバリューチェーン

“快適な食生活”、“流通ネットワーク”、“環境負荷低減”という3つの価値創造を実践しているエフピコの事業活動を機能的に動かしているのは、調達からリサイクルへと続く循環型のサプライチェーンです。

さらに部署やグループ会社の垣根を超えた活発なコミュニケーションがこのサプライチェーンを価値創造するバリューチェーンへと発展させています。

## モノの流れ

使用済み容器をリサイクルしているエフピコのサプライチェーンは循環型になっています。製品をリサイクルすることを念頭に調達、製品開発、製造など全ての工程が展開します。最小限のエネルギーで最大限の効果を上げることができるよう、事業の効率性を常に求めています。

## 情報・アイデアの流れ

エフピコグループ社員間の情報やアイデアの動きは、複数の工程が交じり合うかのように複雑です。製品開発の部署が物流に関するアイデアを出したり、リサイクルに関わる社員が販売の現場の営業スタッフに情報を提供したりなどです。容器が生み出す価値を創造するためのクリエイティブなコミュニケーションが日々行われています。





## 価値創造を生み出すエフピコのバリューチェーン

## 組織と体制

## 調 達

調達の業務はエフピコの頭脳を司るサプライ・チェーン・マネジメント (SCM) 部が担当しています。プラスチック製の食品容器は、食品に直接触れる用途であり、エフピコでは国による法令・公的基準、より厳しい業界の自主基準、さらに自社基準の遵守によって食品容器の安全・衛生性を担保しています。



## 製品開発

製品開発は営業部門に属する容器開発部と研究・開発部門に属する製品開発部が担当しています。営業部門から持ち込まれたアイデアを基に、開発の業務は主に最新の設備を備えたエフピコ総合研究所でおこなわれています。



## 製 造

SCM部の生産計画の下、計画を微調整しながら最適な生産活動を行っているのは全国に配置した生産工場です。生産の現場で働くスタッフの知見と経験がSCMにフィードバックされます。



## 物 流

物流の倉庫業務は(株)アイ・ロジック、運送業務はエフピコ物流(株)が担当しています。実際に製品・商品を保管、ピッキング、配送する現場の創意工夫と努力が正確な納品を実現しています。



## 販 売

東京と大阪を中心に営業拠点は全国に12カ所。さらにグループ会社を含め、大所帯の販売チームです。

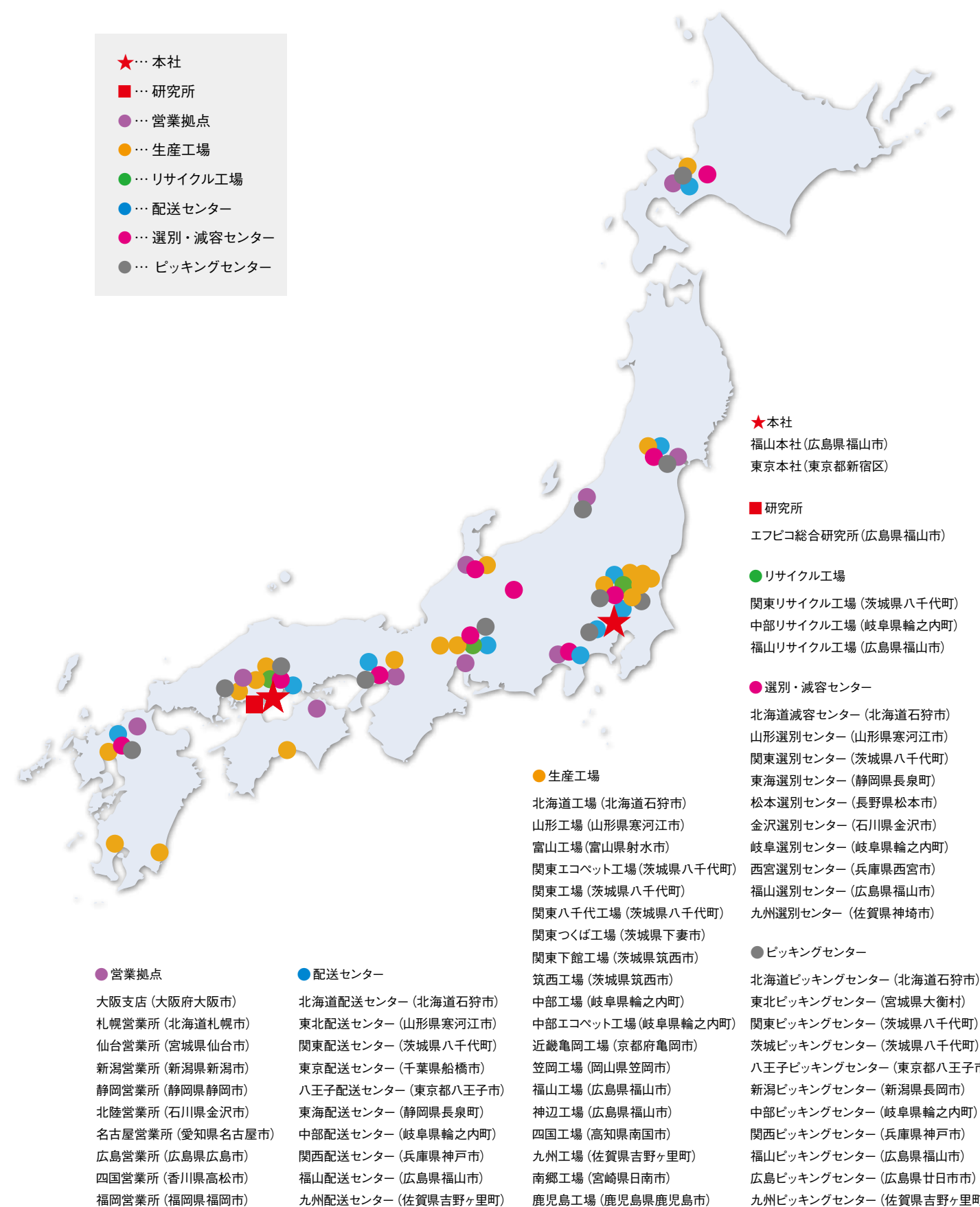


## リサイクル

全国に10カ所のリサイクル拠点を効率よく配置しています。リサイクル部、障がいのある社員が働くグループ会社、見学窓口の環境対策室と様々な部署が協働しています。



- ★… 本社
- … 研究所
- … 営業拠点
- … 生産工場
- … リサイクル工場
- … 配送センター
- … 選別・減容センター
- … ピッキングセンター





# エフピコのESG

エフピコが実践する3つの価値創造はESGや国連が提唱するSDGsと密接に関係しています。事業を継続して推進することが、社会活動に参画し、住みやすく生きがいのある社会の創造をお手伝いすることと同義語であるという意識をエフピコは持ち続けたいと思っています。



## SDGs (持続可能な開発目標)とは

開発アジェンダの節目の年、2015年の9月25日～27日、ニューヨーク国連本部において、「国連持続可能な開発サミット」が開催され、150を超える加盟国首脳の参加のもと、その成果文書として、「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択されました。アジェンダは、人間、地球及び繁栄のための行動計画として、宣言および目標を掲げました。この目標が、ミレニアム開発目標(MDGs)の後継であり、17の目標と169のターゲットからなる「持続可能な開発目標(SDGs)」です。※国際連合広報センターの解説より抜粋



- ・気候変動問題への対応
- ・廃棄物の削減・リサイクル
- ・汚染物質の適正な管理 など

エフピコ方式リサイクルによるCO<sub>2</sub>の削減、環境対応製品「エコトレ」「エコAPET・エコOPET」の製造・販売、SCMシステムによるエネルギーロスの少ない製造・物流などを行っています。



- ・地域社会への貢献
- ・労働環境の改善
- ・ダイバーシティの尊重 など

障がいのある社員の雇用、ユニバーサルスポーツであるフロアホッケーとその大会サポートボランティア活動、障がい者の雇用コンサルティング、学生インターンシップの受け入れなどを行っています。



- ・内部統制
- ・コンプライアンスの遵守
- ・リスクマネジメント など

社外取締役が過半数を占める監査等委員会による経営監査、コンプライアンス研修の実施、多彩なプログラムによる人材マネジメント、ハード面とソフト面におけるリスクマネジメントなどを行っています。



| ESG           | 主要項目         | ESGの重要課題           | 主な取り組み                    | 対応ページ                                                                                 | 主に関するSDGs                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
|---------------|--------------|--------------------|---------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ガバナンス         | 組織統治         | コーポレートガバナンス        | 企業統治                      | 37                                                                                    |                                                                                                                                                                             |
|               |              |                    | 内部統制                      |                                                                                       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|               |              |                    | IR 活動（株主・投資家との対話）         | 39                                                                                    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|               |              | コンプライアンス           | コンプライアンスの徹底、グループ行動憲章の遵守   | 38                                                                                    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|               |              | リスクマネジメント          | BCP 管理、災害時対策、事故・危険防止策     | 38                                                                                    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| 社会の中の<br>エフピコ | 公正な事業慣行      | 公正な取引の遵守           | 取引に関する法令遵守と調達に関する方針の社内浸透  | 41                                                                                    |                                                                                                                                                                                                                                                                |
|               |              | サプライチェーン<br>マネジメント | 原材料の調達・サプライチェーンマネジメント     |                                                                                       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|               | 人権           | 人権の尊重              | 人権と個人の尊重                  | 42                                                                                    |                                                                                                                                                                                                                                                                |
|               |              |                    | ハラスメントなどに関する教育の実施         |                                                                                       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|               | 労働慣行         | 働きがいの向上            | 働き方改革制度改正への対応             | 42                                                                                    |     |
|               |              |                    | 福利厚生、次世代育成支援制度の活用         |                                                                                       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|               |              | 従業員の健康と安全          | 労働時間短縮、有給休暇取得促進に向けた取り組み強化 | 43                                                                                    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|               |              |                    | 安全な職場環境の整備プログラム           | 43                                                                                    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|               |              | 人材育成               | 人材の獲得と退職防止、人材育成           | 37                                                                                    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|               |              |                    | ダイバーシティ                   | 多様性と労働環境の平等性、女性の活躍推進宣言                                                                |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|               |              | 障がい者雇用と支援体制の強化     |                           | 44                                                                                    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|               |              | 消費者課題              | 製品の品質と安全性                 | 品質管理体制の強化                                                                             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|               | 製品の安全性確保     |                    |                           |                                                                                       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|               | FSSC 認証      |                    |                           | 41                                                                                    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|               | プラスチック海洋ごみ問題 |                    | プラスチック海洋ゴミ問題解決の解決に向けた宣言活動 | 50                                                                                    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|               | 食品ロス削減       |                    | 新たな容器包装の素材開発・技術開発         | 45                                                                                    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| コミュニティへの参画    | コミュニティと地域活動  | 地域社会との関係強化         | 45                        |  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| 環境への<br>取り組み  | 環境           | 気候変動・<br>大気汚染の防止   | 温室効果ガス（GHG）排出削減           | 47・<br>48                                                                             |                                                                                    |
|               |              |                    | 省エネ設備への投資                 |                                                                                       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|               |              |                    | ハイブリッド車・低燃費車への移行          |                                                                                       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|               |              | 資源利用と廃棄物           | 事業活動における省資源化の徹底と省エネルギー推進  | 48                                                                                    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|               |              |                    | 廃棄物管理強化（ゼロエミッション）         | 17                                                                                    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|               |              |                    | 輸送時におけるエネルギー管理、モーダルシフト    |                                                                                       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|               |              |                    | SCM による最適化と効率化の向上         |                                                                                       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|               |              | 水の管理               | 生産・リサイクル工場における水の消費と排水の管理  | 48                                                                                    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|               |              | 生物多様性の保全           | 化学物質などの影響による自然環境リスクの予防    | 38                                                                                    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|               |              |                    | 事業所内緑地の活用推進               |                                                                                       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |



# GOVERNANCE ガバナンス

## コーポレートガバナンスの基本方針

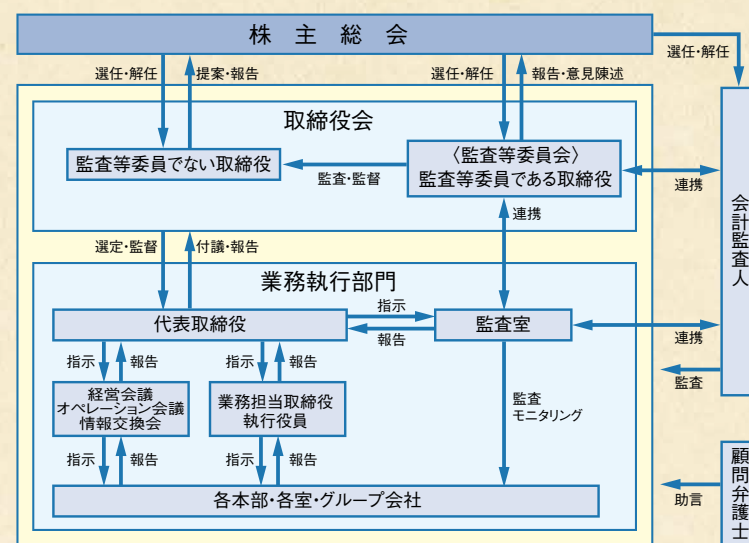
- ①株主の権利・平等性の確保
- ②株主以外のステークホルダーとの適切な協働
- ③適切な情報開示と透明性の確保
- ④取締役会の責務
- ⑤株主との対話

## 組織マネジメント

### 透明性の高い意思決定組織

エフピコは持続的な成長と中長期的な企業価値の向上を目指し、経営の意思決定の迅速化と並行して取締役の職務執行の監査・監督機能を強化することで、コーポレート・ガバナンスの更なる充実を図っています。そのための手段として、右図のような監査等委員会設置会社を選択しています。独立社外取締役及び社外取締役で構成される監査等委員会が経営監視の役割を担い、透明性の高い経営の実現に取り組んでいます。

内部統制システムの概要を含むコーポレートガバナンス体制についての模式図



### 人材マネジメント

組織を支える人材育成を目的とし、様々なプログラムを実施しています。

**次世代研修:**「自分の頭で考える」をテーマにエフピコの次世代を担う社員を育成するため約半年間にわたって実施するプログラムです。自分の力で答えを創り出し、変化に対応できる社員となるための研修制度です。

**マンツーマンリーダー研修会:**マンツーマンリーダーは約半年から1年間メンターとして新人の教育係となります。そのメンターとなるための研修ですが、同時にリーダー自身の教える力のスキルアップも目的としています。

**その他の研修プログラム:**女性マネージャーと上司の相互理解を深める研修、管理職候補を対象とした研修、経理・財務に関する実務のスキルアップのための経理部研修、ESGやSDGsといった非財務活動による企業価値創造について勉強する環境関連研修会、また勤続10年以上のエフピコグループ社員を対象としたハワイ研修などを実施しています。

## コンプライアンス

経営理念に基づき、社員がどのように行動すべきかを示した「エフピコグループ行動憲章」、さらに同憲章の精神に則った「エフピココンプライアンス行動規範」を制定して行動準則として定め、コンプライアンスを最優先とした行動を遵守する方針としています。各行動準則は社内ネットワークシステムへ掲載し、社員が随時確認できる環境を整備しています。また、法務・コンプライアンス統括室が中心となり、集合研修や「コンプライアンス便り」の発刊などを通じて、行動準則の浸透を図っています。浸透状況は取締役、執行役員やグループ会社の代表者による情報交換会で適宜報告を行い、レビューを実施しています。

## エフピコグループ行動憲章

私たちは、エフピコの経営理念に基づき、法令、協定および社内規程等を遵守するとともに、高い倫理観と社会的良識をもって、以下のとおり行動する。

1. 社会に有用な製品・情報・サービスを提供し、消費者・顧客の満足と信頼の獲得に努める。
2. 安全・安心・環境に配慮した製品を開発、提供し、もって食文化の発展に寄与する。
3. 消費者・顧客の協力を得て、「エフピコ方式(トレー to トレー)、(ボトル to トレー)」の循環型リサイクルを積極的に推進し、拡大生産者責任を果たし、地球環境の保全に努める。
4. すべての事業活動において、公正・透明・自由な競争を行う。
5. 株主や製品の利用者と広くコミュニケーションを図り、企業情報を積極的かつ公正に開示する。
6. 人権と個性を尊重した安全で働きやすい職場環境を実現する。
7. 政治、行政、取引先等とは、健全かつ正常な関係を保ち、市民社会に不安と脅威を与える反社会的勢力および団体の不当・不法な要求には一切応じない。
8. 良き企業市民として、積極的に社会貢献活動を行う。
9. 海外においては、各国の法令を遵守し、文化や慣習を尊重して事業活動を行う。
10. 経営全般にわたり有効性を評価し、合理化、効率化に努めて企業価値を高める。
11. この行動憲章に反するような事態が発生したときは、全員で問題解決にあたり、原因究明と再発防止に努める。

## リスクマネジメント

自然災害、人的要因または機械要因で発生する事故、悪意ある第三者による障害など様々なリスクを想定した対策を講じています。

1. **災害時対策:** 全社員に携帯を義務付けている「災害時用ハンドブック」、ヘルメットや救急用品などの緊急時対策備品の整備、災害時に発動する安否確認システムや災害時優先電話の設置など自然災害の発生からの事業継続を想定した対策を講じています。また福山本社や各地の拠点には非常用発電装置を配備しているほか、瀬戸内海に面する福山市箕沖町のエフピコグループ敷地には高波対策として約2mの高さの防潮堤を設置、福山本社は浸水対策として執務エリアを2階以上に設置しています。
2. **製品品質のリスクへの対応:** 品質方針についてはホームページ ([https://www.fpc.jp/esg/managementeffort/risk\\_control.html](https://www.fpc.jp/esg/managementeffort/risk_control.html)) をご覧ください。
3. **事故・危険防止策:** 安全衛生委員会の設置による部署の垣根を超えた安全対策情報の共有、生産・リサイクル工場における定期的な避難訓練、フォークリフト事故撲滅プロジェクトなど危険を伴う作業の対策プログラム、VR危険体感による安全教育などの対策を実施しています。
4. **情報・セキュリティ対策:** 大型複合施設におけるナンバープレートによる登録制の入退場管理を行うセキュリティゲートの設置、パソコンデータの定期的なバックアップ、非常時対応用の外部データセンターの活用、回線の二重化、社外メール誤送信回避システム、専門業者によるPC廃棄などを実践しています。また、情報資産の取扱い管理方法等のルール遵守を徹底し、情報資産の不正利用や漏洩防止に努めています。



## エフピコのESG

## ガバナンス

## 株主とのかかわり

## 建設的な対話と適切な情報開示

エフピコは、持続的な成長と中長期的な企業価値向上に資するため、株主の皆様との建設的な対話を積極的におこない、株主の皆様の意見や要望を経営に反映させていくことが重要と考えています。株主総会や年2回の決算説明会以外にも、個別ミーティングや施設見学会などを実施し、中長期的な経営戦略や事業内容をよりわかりやすく説明することにより、株主の皆様との信頼関係構築と適正な株価の形成を図っています。



<https://www.fpcop.co.jp/ir/>

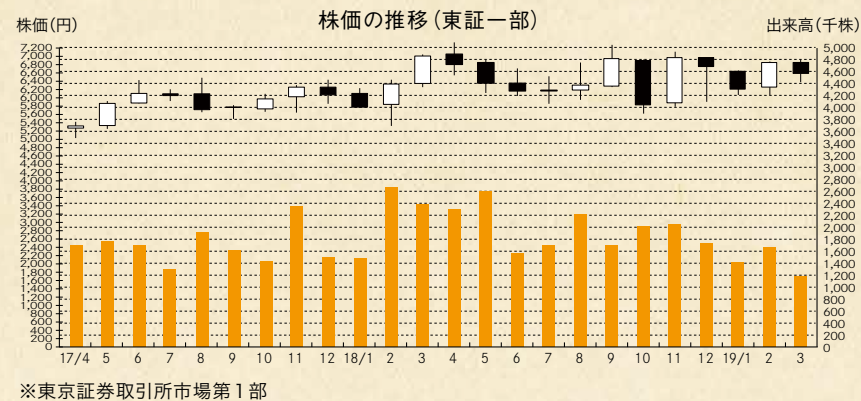
- ・業績ハイライト
- ・IR資料
- ・プレスリリース
- ・アナリスト説明会  
(ビデオ映像等)
- ・株主総会のご報告
- ・株式情報
- ・電子公告



また、常に適時・適正・迅速・公平な企業情報の開示に努めており、有価証券報告書・決算短信・決算説明会資料・プレスリリースなどはホームページの「株主・投資家情報」で公開しています。

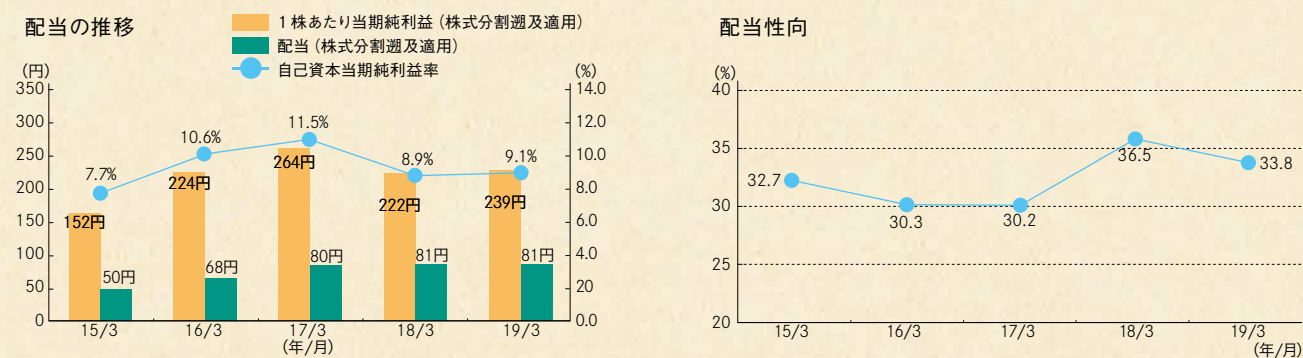
## 企業価値の拡大

「もっとも高品質な製品」を「どこよりも競争力のある価格」で「必要な時に確実にお届けする」という3つの基本方針に則り、株主本位の経営を実践しています。グループ経営の諸施策を着実に実行することにより、企業価値を高め、1株当たり当期純利益330円を目標としています。



## 継続的に安定した配当

エフピコは、株主の皆様への利益に見合った利益還元を最重要課題のひとつと考え、収益力の向上と財務体質の強化を図りながら、継続的かつ安定的な配当を実施していくことを基本方針としています。このような方針のもと、当事業年度は1株当たり81円(うち第2四半期末配当金41円)の配当を実施しました。



## ■データ：財務サマリー

| 回次                  |       | 第53期     | 第54期     | 第55期     | 第56期     | 第57期     |
|---------------------|-------|----------|----------|----------|----------|----------|
| 決算年月                |       | 2015年3月  | 2016年3月  | 2017年3月  | 2018年3月  | 2019年3月  |
| 売上高                 | (百万円) | 164,918  | 170,292  | 172,858  | 173,580  | 181,171  |
| 経常利益                | (百万円) | 10,106   | 14,027   | 15,742   | 13,548   | 14,861   |
| 親会社株主に帰属する当期純利益     | (百万円) | 6,329    | 9,294    | 10,953   | 9,178    | 9,901    |
| 包括利益                | (百万円) | 6,967    | 8,900    | 11,440   | 9,806    | 9,332    |
| 純資産額                | (百万円) | 85,133   | 91,591   | 99,721   | 106,219  | 112,198  |
| 総資産額                | (百万円) | 196,629  | 209,053  | 219,481  | 244,147  | 249,332  |
| 1株当たり純資産額           | (円)   | 2,047.04 | 2,202.56 | 2,403.52 | 2,560.18 | 2,703.33 |
| 1株当たり当期純利益金額        | (円)   | 152.89   | 224.54   | 264.86   | 222.01   | 239.51   |
| 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額 | (円)   | -        | -        | -        | -        | -        |
| 自己資本比率              | (%)   | 43.1     | 43.6     | 45.3     | 43.4     | 44.8     |
| 自己資本当期純利益率          | (%)   | 7.7      | 10.6     | 11.5     | 8.9      | 9.1      |
| 株価収益率               | (倍)   | 28.5     | 21.4     | 19.6     | 31.4     | 27.3     |
| 営業活動によるキャッシュ・フロー    | (百万円) | 16,912   | 20,832   | 25,912   | 13,974   | 25,510   |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー    | (百万円) | △18,397  | △17,923  | △21,932  | △23,656  | △17,109  |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー    | (百万円) | △957     | △1,530   | △924     | 7,197    | △4,908   |
| 現金及び現金同等物の期末残高      | (百万円) | 13,710   | 15,089   | 18,144   | 15,659   | 19,151   |
| 従業員数                | (人)   | 4,173    | 4,332    | 4,513    | 4,529    | 4,439    |

(注) 1. 売上高には、消費税等は含まれておりません。  
 2. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。  
 3. 2014年4月1日付で、普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っておりますが、第51期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、1株当たり純資産額及び1株当たり当期純利益金額を算定しております。



# SOCIETY

## 社会の中のエフピコ

### サプライチェーンマネジメント

#### 調達に関する方針

事業で使用する原材料や製・商品等は、資源の採掘から加工・製造、販売という長いサプライチェーンを経て調達しています。その過程で環境汚染や人権問題などに配慮された製品・サービスを調達することは事業者としての責務です。サプライチェーンにおいて、「直接購買する対象がその生産、流通の段階で児童労働や不法就労等の人権侵害でないことを確認」し、お取引先様に協力を要請して参りました。新製品開発や新しい工場等の建設の際には、品質・環境など様々なアセスメントを実施し、人や地域社会への影響評価を行うことで人権への配慮を進めています。

#### 1. CSR調達方針

エフピコグループではエフピコグループ行動憲章に則って「CSR調達方針」を制定し、調達における環境・社会配慮を推進しています。

### エフピコCSR調達方針

#### 1. 品質本位

お客様にとって価値ある安心・安全で高品質な製品・サービスをご提供するにあたり、調達活動は当グループの「品質方針」に沿って品質と安全を最優先し、さらにコストについても重視いたします。

#### 2. 公正な取引

経済合理性、適正な品質、納期の厳守、社会規範の遵守、社会的課題への配慮、環境配慮などを総合的に勘案し、公正、透明な方法でサプライヤーを選定します。正当な理由なく、特定の取引先に利益を供与したり、不当な不利益を課すようなことはしません。

#### 3. 法令等遵守

調達活動においては、法律及び社会規範を尊重し、いかなる場合もこれらに違反しません。反社会的勢力とは一切の関係を持たず、不当な要求は拒絶します。

#### 4. 社会的課題への配慮

基本的人権を尊重し、労働安全衛生に配慮し、不当な差別や強制労働や児童労働などの人権侵害を行わないサプライヤーとの取引、製品・サービスの調達に努めます。

#### 5. 環境への配慮

当グループの「環境方針」に則り、環境負荷低減の取り組みを推進し、気候変動、生物多様性などの環境問題の抑制や緩和に資するサプライヤーとの取引、製品・サービスの調達に努めます。

#### 6. サプライヤーとの協働

調達にあたって社会的課題や環境への配慮をサプライチェーンにわたって実践するため、サプライヤーと長期的な信頼関係を築き、共存共栄を図ります。サプライヤーと協働しリスクの適切な管理と未然防止を徹底し、社会と経営への影響を回避する取り組みに努めます。

#### 2. エフピコグループ購買ガイドライン

上記「CSR調達方針」に基づき「エフピコグループ購買ガイドライン」を設けています。ホームページをご覧ください([https://www.fpc.co.jp/esg/sc\\_management.html](https://www.fpc.co.jp/esg/sc_management.html))。

またエフピコの生産工場ではFSSC認証（食品安全管理を実践するためのマネジメントシステム規格）の取得を進めており、今年度は中部エコペット工場で認証登録を完了しました。今後は他の工場でも順次認証取得をしていく予定です。

### 雇用と労働における取り組み

#### 人権にかかわる基本方針

エフピコグループは、全ての人がお互いの個性と人権を尊重し、国籍・人種・信条・性別・障がい・社会的身分や社内的地位などを理由に差別されることなく公正な扱いを受け、平等な機会を得る権利を有するという基本原則の下、「エフピコグループ行動憲章」「エフピココンプライアンス行動規範」に基づき全ての事業活動において、人権と個人を尊重し、良き企業市民として高い倫理観と社会的良識を持って行動し、全てのステークホルダーと健全かつ正常な関係を保ち、社会から信頼される企業グループとして持続的に企業価値を高めていきます。

#### 働く環境の整備

すべてのエフピコグループ社員が働きがいを感じながら充実した人生を過ごすことができるよう、様々な角度から労働環境の向上と生活の支援を行っています。

#### 社員のワークライフバランス支援

フレックスタイム制、始・終業時刻をスライドする時差出勤、5日間の連続有給休暇（スマイル休暇）取得の義務化、ノー残業デーの設定などにより、労働時間配分を主体的に考え行動し、労働時間の最適化を図る働き方改革を推進しています。

#### 女性の活躍推進と働きやすい職場づくり

女性社員の職域拡大、管理職の増加を目指す取り組みに関して「女性の活躍推進宣言」を厚生労働省のポジティブアクション情報ポータルサイトに掲載しています。女性の総合職採用30%以上を目指し、2022 年までに女性の管理職を50名とするよう取り組んでいます。また勤務時間については育児の段階に合わせて8パターンの時差出勤を設定しているほか、子供が小学校入学前まで短時間勤務を希望者全員に認めています。

#### プライベートライフ充実のサポート

各種スポーツなど社員が集まって趣味で行っているレクリエーションを活動費の提供という形でサポートしているほか、歓迎会なども補助の対象となっています。



## エフピコのESG

## 社会の中のエフピコ

## 健康と安全

## 安全衛生委員会の設置

すべてのエフピコグループ社員が働きがいを感じながら充実した人生を過ごすことができるよう、様々な角度から労働環境の向上と生活の支援を行っています

## 健康と安全のための様々なプログラム

社員が健康な状態で毎日を過ごし、安全な環境で働けるよう下記を含む様々なプログラムを実施しています。

## けんこうセミナー

社員の心身の健康について維持増進を図るために毎年「けんこうセミナー」を開催しています。

## 安全運転研修

新入社員研修の一つとして「ドライビング研修」を毎年実施しています。外部ドライビングスクールで1日をかけて安全運転について学びます。また、主要営業拠点にて、交通事故を未然に防ぐための外部講師による自動車安全運転講習会を行っています。

## フォークリフト事故撲滅プロジェクト

フォークリフトは軽自動車約3台分の重量があり、人命に係る重大な事故につながる可能性があるため、エフピコ物流では2015年に「フォークリフト事故撲滅プロジェクト」を立ち上げています。第三者の客観的なチェックと作業にあたる人材の育成を目的とし、事故防止に努めています。

## 危険体感講習

2015年より労働災害防止の一環として「危険体感装置」を導入し教育を開始しました。2017年より新たにユニットハウス2基に専属講師を付け「危険体感装置」(7種類)の全国展開を実施しています。

## VR体験

2018年より「バーチャルリアリティ危険体感装置」を導入しています。CG映像と触覚手袋から伝わる衝撃や感触によって、視覚・聴覚・感覚を刺激する臨場感のある疑似体験を通して、危険に対する感受性を高める教育を実施しています。「ベルトコンベアーへの挟まれ」「ローラーへの巻き込まれ」「高所からの転落」の3つのシナリオを用意しています。



フォークリフト事故撲滅プロジェクト



危険体感講習



VR危険体感装置

## ダイバーシティ

## エフピコの基幹事業で働く障がいのある社員

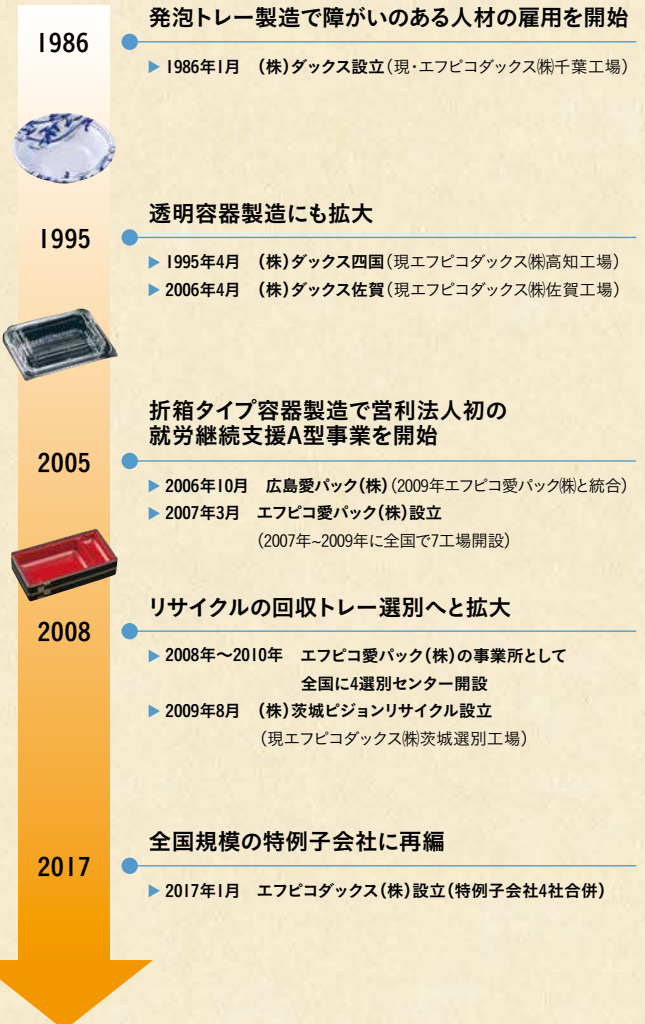
エフピコグループにおいては障がいのある社員は使用済み容器の選別と食品容器製造という基幹業務で活躍しています。経営として成り立ち、働いて生きていくという当たり前のことを実現する障がい者雇用の歴史は30年を超えました。これからも新しい課題に取り組む努力を続けていきます。

| 障がいのある社員 | 359名           |
|----------|----------------|
| 内訳       |                |
| 身体障がい    | 33名(うち重度16名)   |
| 知的障がい    | 321名(うち重度251名) |
| 精神障がい    | 5名             |
| 雇用率換算数   | 623.5名         |
| 障がい者雇用率  | 13.6%          |

※エフピコグループ連結、2019年3月31日時点

## フロアホッケーを通じてのインクルージョン意識の向上

障がいの有無を超えてグループとしての一体感を感じることができるようにと2010年に始めたのがユニバーサルスポーツであるフロアホッケー活動です。今ではエフピコグループの社員約600名(うち障がいのある社員約200名)が9つのエリアで活動しています。またエフピコはフロアホッケーの全日本競技大会や中国四国大会をスポンサリングすることでフロアホッケーを支援し、各大会では多くの社員がボランティアとして運営面での協力も行っています。



(株)ダックス竣工式



透明容器製造



折箱タイプ容器製造



回収トレイ選別(発泡トレイ)



回収トレイ選別(透明容器)



## エフピコのESG

## 社会の中のエフピコ

## 消費者との関わり

## 消費者課題

海洋プラスチックごみ問題などは多くの消費者の関心事となっています。エフピコもこうした問題を取りまく状況の改善に向け企業市民として関わっています。

## 海洋プラスチックごみ問題への対応

海洋プラスチックごみの主な原因は「ポイ捨て」です。食品容器は回収ボックスに持ってきていただくことにより再生可能な「資源」になることを消費者の皆様に再認識していただくための様々な活動を強力に展開する中で、「トレー to トレー」「ボトル to トレー」の循環型リサイクルを一層推進してまいります。また業界団体を通じて「プラスチック海洋ごみ問題の解決に向けた宣言活動」に参画し、業界団体と連携した活動を推進していきます。

## 食品ロス問題への対応

食品ロス削減を実現するためにエフピコができることは、新たな容器包装資材の開発やパッケージの構造の工夫などです。容器包装の本来の機能である「鮮度保持・小分け」という基本的な機能から発展した、容器包装の高機能事例として「輸送時の損傷軽減」という観点で農林水産省のホームページでも紹介されています。鮮度保持期間を長くし、必要な分量だけ販売できる容器をつくることで食品ロスを減らすなど、エフピコにできることは継続して行っています。

## コミュニティへの参画

消費者の方々と交流することはコミュニティへの参画という意味でも上記の消費者課題の解決策提供という観点からも非常に重要であると考えています。各地のイベントに参加したり、スーパーマーケット様との協働で店内ブースを設けたり、環境をテーマとした小学校への出張講座、学生インターンシップの受け入れ、教員研修の受け入れなどを積極的に行っています。



## 2018年度に全国各地で開催されたイベントへの参加状況

| 日付            | イベント名                            | 開催地 | 主催               |
|---------------|----------------------------------|-----|------------------|
| 2018/5/19~20  | 福山ばら祭2018                        | 広島県 | 福山市              |
| 2018/6/2      | 八王子環境フェスティバル                     | 東京都 | 八王子市             |
| 2018/6/3      | 環境の日ひろしま大会                       | 広島県 | ひろしま地球環境フォーラム    |
| 2018/6/2~3    | エコライフフェア2018                     | 東京都 | 環境省              |
| 2018/8/19     | エコワールドフェス                        | 大阪府 | おおさかATCグリーンエコプラザ |
| 2018/9/29     | ふくやまサイエンスフェスティバル                 | 広島県 | 福山市立大学           |
| 2018/10/10~12 | エコテクノ2018                        | 福岡県 | 北九州市             |
| 2018/10/14    | 新宿区3Rもったいない環境イベント                | 東京都 | 新宿区              |
| 2018/10/27~28 | やまがた環境展                          | 山形県 | 山形県              |
| 2018/11/3     | こどもエコクラブ&おおさかATC<br>グリーンエコプラザ交流会 | 大阪府 | おおさかATCグリーンエコプラザ |
| 2018/11/10~11 | 長崎エコライフフェスタ2018                  | 長崎県 | 長崎市              |
| 2018/11/10    | いたみ環境&リサイクル・フェア2018              | 兵庫県 | 伊丹市              |
| 2018/11/17~18 | じばさんフェア2018                      | 広島県 | 備後地域地場産業振興センター   |
| 2018/12/8     | 駅家小学校でリサイクル                      | 広島県 | 株式会社オンライン        |
| 2019/2/16     | 一宮市消費生活フェア                       | 愛知県 | 一宮市              |
| 2019/2/16     | とりeco環境フェスタ                      | 鳥取県 | 鳥取県              |
| 2019/3/3      | 新宿区こども祭り                         | 東京都 | 新宿区              |
| 2019/3/25     | こどもエコクラブ<br>全国フェスティバル2019        | 東京都 | 日本環境協会           |

## ■データ：人材データサマリー

| 従業員の構成（2019年3月末現在） | 男     | 女    | 合計    |
|--------------------|-------|------|-------|
| 従業員数               | 583   | 265  | 848   |
| 平均年齢               | 43.3  | 34.0 | 40.4  |
| 30歳未満              | 102   | 97   | 199   |
| 30～39歳             | 133   | 102  | 235   |
| 40～49歳             | 160   | 49   | 209   |
| 50～59歳             | 149   | 13   | 162   |
| 60歳以上              | 39    | 4    | 43    |
| 勤続年数               | 15.7  | 10.3 | 13.1  |
| 連結従業員数             | 3,441 | 998  | 4,439 |
| 外国人従業員数            | 0     | 1    | 1     |

| 離職者数   | 早期 | 自己 | 会社 | 転籍 | その他 | 合計 |
|--------|----|----|----|----|-----|----|
| 2018年度 | 0  | 12 | 0  | 0  | 3   | 15 |

| 新卒入社者の定着状況    | 男  | 女  | 合計 |
|---------------|----|----|----|
| 2016年4月新卒入社者数 | 18 | 17 | 35 |
| 2019年4月在籍者    | 18 | 16 | 34 |

| 管理職に占める女性比率 | 女  | 男   | 女性比率 |
|-------------|----|-----|------|
|             | 19 | 316 | 5.7  |

| 障がい者雇用      | 2016年度 | 2017年度 | 2018年度 |
|-------------|--------|--------|--------|
| 実人数 (人)     | 374    | 377    | 359    |
| 障がい者雇用率 (%) | 13.95  | 13.78  | 13.6   |

| ワーク・ライフ・バランス | 2016年度 | 2017年度 | 2018年度 |
|--------------|--------|--------|--------|
| 有給休暇取得率 (%)  | 34.9   | 39.5   | 51.7   |
| 一人あたり月平均残業時間 | 10.9   | 18.9   | 10.0   |
| 産休取得者数 (人)   | 15     | 17     | 25     |
| 育休取得者数 (人)   | 15     | 22     | 16     |
| 育児休業復帰率 (%)  | 100.0  | 86.7   | 100.0  |



## エフピコのESG

## 環境への取り組み

# ENVIRONMENT

## 環境への取り組み

## 環境方針

地球環境の保全及び保護が最重要課題であるとの認識のもとに、環境と調和し持続的発展が可能な社会の実現に貢献することを基本理念とし事業活動を推進しています。

## 基本理念

当社は地球環境の保全及び保護が最重要課題であるとの認識のもとに、環境と調和し持続的発展が可能な社会の実現に貢献することを基本理念とし事業活動を推進する。

## 方針

1. CO<sub>2</sub>削減、天然資源の有効活用の立場から、当社の事業活動、製品及びサービスの省資源化を徹底すると共に、一般家庭から排出される使用済み食品容器を食品容器に再生利用する「エフピコ方式」のリサイクル事業を積極的に拡大し推進する。
2. 当社に対する法的要求事項等を順守すると共に、ステークホルダーのニーズや期待を理解し、運用に際しては自主基準を定め、汚染の予防を行う。
3. 環境に影響を与える活動・製品・サービスを考慮した環境目標を定め、管理計画を立案、推進すると共に、内部監査やトップマネジメントによる見直しを通じて評価し、継続的改善を行う。
4. 効率的な水の利用により、水資源の使用量削減を推進する。
5. 化学物質や廃棄物などによる自然環境の汚染と健康被害につながる環境リスクを予防する。

## 環境保全に向けた活動

## 気候変動とエネルギーの利用

エフピコグループでは気候変動対策が経営の根幹を成すもののひとつと考え、環境経営計画「エフピコ・エコアクション50（FPEA-50）」において、製品・生産・物流・販売・オフィスの各部門にワーキンググループを設置し、主体的に様々な目標を立て活動を実施し、エフピコグループトータルでのCO<sub>2</sub>削減に向けた取り組みを行っています。ワーキンググループは情報交換と協働を繰り返し、相乗効果により大きな成果を目指しています。



「エフピコ・エコアクション50」での製品、生産、物流、販売、オフィスの各ワーキンググループにおいてプロセス型の目標を設定しており、その総合的な成果として長期のCO<sub>2</sub>削減目標を設定しています。

## &lt;投資プロセスでの目標&gt;

- ① 照明設備・・・省エネ蛍光球やLED灯の更新及び導入等
- ② 空調設備・・・空調設備更新、インバーター制御装置取付等
- ③ 素材開発・・・CO<sub>2</sub>排出の少ない樹脂研究等
- ④ 生産及びリサイクル設備・・・リサイクル工場の増設、高効率エネルギーラインの導入等

## &lt;運営プロセスでの目標&gt;

- ① 照明設備（照明点灯時間の見直し／不要照明の消灯／照度の見直し）
- ② 空調設備（適正温度運転／不要空調の停止／空調機、換気扇等の清掃）
- ③ 素材開発（製品の軽量化、薄肉化の研究／再生樹脂を使用した製品の販売量拡大）
- ④ 生産設備（効率的な生産プロセスの検討／再生原料調達の拡大）

エフピコグループ長期 CO<sub>2</sub> 削減目標

CO<sub>2</sub>排出量を、2020年度までに  
20%削減（2003年度比）

CO<sub>2</sub>排出原単位（販売枚数あたり）を、  
半減（2003年度比）

※改正省エネ法において報告対象となっているエフピコグループの全拠点（生産工場、配送センター、オフィス）からのCO<sub>2</sub>排出量および特定荷主の責任範囲の物流にともなうCO<sub>2</sub>排出量の合計。

## 資源利用と廃棄物

エフピコグループは、適切な資源利用と廃棄物の発生削減が重要な環境課題であると認識しています。事業に使用する資源は一方通行の大量消費ではなく、3R（REDUCE、REUSE、RECYCLE）の考え方に基づいて、資源の有効利用に努めることが必要であると考えています。エフピコグループでは製品及びサービスの省資源化を徹底すると共に、一般家庭から排出される使用済み食品容器やPETボトルを食品容器に再生利用する「エフピコ方式」のリサイクル事業を積極的に拡大し推進しています。この活動は、調達先や製品及び商品の販売先等のステークホルダーと協働して取り組むことにより実現しています。

## 水利用

社会の基本的インフラとして、水資源保全を重要な環境課題であると認識しています。水利用については、生産拠点の地域ごとの状況を理解して限りある資源を有効活用する必要があると考えており、次のような対策を実践しています。

- リサイクル工場において水ろ過装置を導入し再利用することで新規使用量を削減
- 生産工場において冷却水の循環設備を標準導入



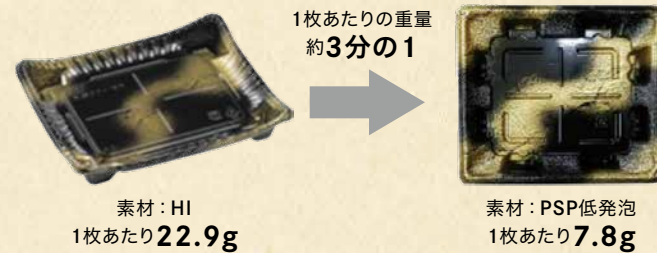
## エフピコのESG

## 環境への取り組み

## リデュースによる環境負荷低減施策

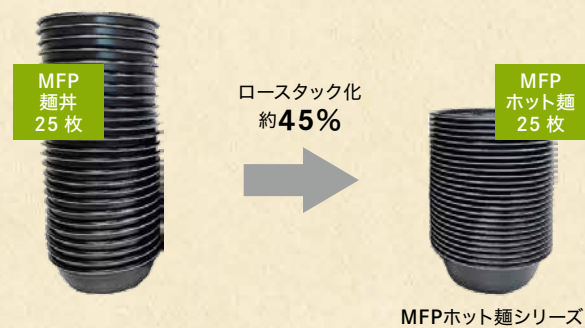
## 軽量化

素材変更や薄肉化により製品の軽量化を継続的にを行っています。右の例でも約3分の1の軽量化となり、CO<sub>2</sub>の削減に繋がります。2020年までに2013年度比で5%の軽量化・薄肉化を目標としています。



## ロースタック化

製品を保管・運搬する際のスタッキングに注目したリデュース施策です。たくさんの製品をより小さい容積でスタックすることにより、在庫スペース、梱包用段ボール、運送などに関係する環境負荷を低減することができます。



## お客様との協働

エフピコのお客様であるスーパーマーケット様、コンビニエンスストア様、惣菜製造会社様などに対して、エフピコが展開している環境負荷低減活動を「エフピコフェア」でご紹介しています。エコトレー、エコAPET・エコOPETを積極的に使っていただくことはCO<sub>2</sub>の削減に大きく寄与し、お客様の企業力向上にも繋がります。使用済み食品容器の回収からエコ製品のご購入までエフピコとお客様が協働することにより、環境問題への取組みが大きく前進します。



## 「海洋プラスチックごみ問題」等資源循環問題への取組みについて

海洋プラスチックごみに対する関心が世界的に高まっています。エフピコは関係省庁や業界団体を通じて海洋プラスチックごみ問題等資源循環問題の解決に向けた様々な活動に参画しています。

|           | 関連省庁・団体の活動                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | エフピコの参加状況                                                                                                                                                             |
|-----------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 経済産業省     | <b>クリーン・オーシャン・マテリアル・アライアンス</b><br>プラスチック製品の使用がより持続可能となる3Rの新たな取組みや代替素材の開発・導入を推進し、官民連携でイノベーションを加速化するため、サプライチェーンを構成する幅広い事業者からなる「クリーン・オーシャン・マテリアル・アライアンス」を設立。<br>①素材の提供側と利用側企業の技術・ビジネスマッチングや先行事例の情報発信等を通じた情報の共有、②研究機関との技術交流や技術セミナー等による最新技術動向の把握、③国際機関、海外研究機関等との連携や発展途上国等への情報発信などの国際連携、④プラスチック製品全般の有効利用に関わる多様な企業間連携の促進等の活動を展開予定。                                                                                                                                                                                                                 | 幹事会社として設立当初から関与し、技術部会副会長会社として参画しています。                                              |
| 環境省       | <b>プラスチック資源循環戦略</b><br><b>【リデュース】</b><br>①2030年までにワンウェイプラスチックを累積25%排出抑制<br><b>【リユース・リサイクル】</b><br>②2025年までにリユース・リサイクル可能なデザインに<br>③2030年までに容器包装の6割をリユース・リサイクル<br>④2035年までに使用済プラスチックを100%リユース・リサイクル等により、有効利用<br><b>【再生利用・バイオマスプラスチック】</b><br>⑤2030年までに再生利用を倍増<br>⑥2030年までにバイオマスプラスチックを約200万トン導入<br><br><b>プラスチック・スマート</b><br>海洋プラスチック問題の解決は、消費者を始め自治体・NGO・企業などの幅広い主体が、一つの旗印の下に連携協働して取組を進めることが必要。そのためポイ捨て撲滅を徹底した上で不要なワンウェイのプラスチックの排出抑制や分別回収の徹底など、“プラスチックとの賢い付き合い方”を全国的に推進し、その取組を国内外に発信していくキャンペーンを「プラスチック・スマート- FOR SUSTAINABLE OCEAN-」と銘打って展開。 | 業界団体として小委員会に参加しています。<br><br><br>キャンペーンHPにて、「トレーtoトレー」「ボトルtoトレー」の取組みを掲載しています。<br> |
| 農林水産省     | <b>プラスチック資源循環アクション宣言</b><br>プラスチック資源循環の問題への対応を国民の理解を得ながら促進する一環として、農林水産・食品産業の業界団体・企業から、プラスチック資源循環に資する自主的取組を広く募集。農林水産省のホームページやSNS、各種媒体等を用いて広く国民に発信することにより、国民一人ひとりのプラスチック資源循環への理解を深め、各自の取組も促進する機運醸成に努める。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | 農林水産省HPにプラスチック資源循環に資する自主取組みとして「エフピコ方式のリサイクル」を掲載しています。                                                                                                                 |
| 日本経済団体連合会 | <b>SDGsに資するプラスチック関連取組事例集</b><br>プラスチックの資源循環をより一層推進するとともに海洋プラスチックごみ問題に貢献する観点から、会員企業・団体による取組事例を発信。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            | 日本経済団体連合会HPに、「リサイクル」「リデュース」「啓発活動」の取組みを掲載しています。                                                                                                                        |

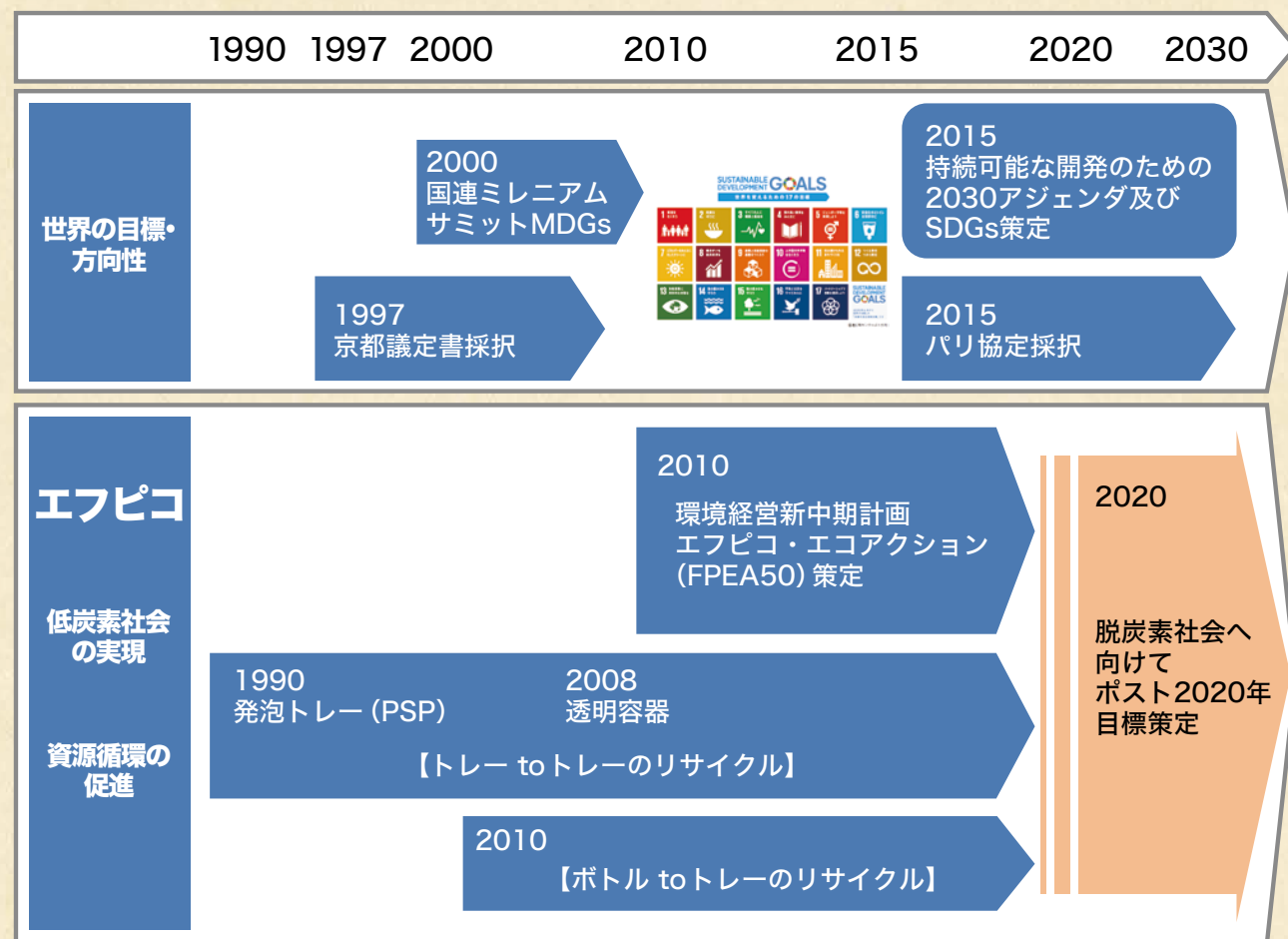


## エフピコのESG

## 環境への取り組み

## 脱炭素社会を目指すエフピコの取り組み

2015年12月のCOP21において、発展途上国も含む全ての国が参加する気候変動対策の枠組みである「パリ協定」が採択されました。パリ協定においては、世界全体の平均気温の上昇を工業化以前よりも2℃高い水準を十分下回るものに抑えるとともに、1.5℃高い水準までに制限するための努力を継続すること、そのために今世紀後半に人為的な温室効果ガスの排出量と吸収量を均衡させることを目指しています。地球環境問題は喫緊の課題であり、環境負荷を抑制して持続可能な社会づくりを実現していくうえでも企業は大きな責任を有しています。



エフピコグループはその責任を果たすという強い決意を、従来の「環境経営計画：エフピコ・エコアクション50」を深化させ、2021年度からの温暖化対策活動をより強化するために2050年を見据えた長期環境ビジョン「エフピコグループ環境ビジョン2050」を2020年度中に策定し、より意欲的な目標として「脱炭素」という概念を追加します。

## ■データ：環境データサマリー

## 製造部門2018年度データ（年間生産値）

|       |          |         |                |
|-------|----------|---------|----------------|
| INPUT | エネルギー    | 電力      | 359,421,081kWh |
|       |          | 化石エネルギー | 97,445,291MJ   |
|       | 水資源      | 上水      | 460,196m³      |
|       |          | 地下水     | 146,313m³      |
|       |          | 工業用水    | 89,499m³       |
|       | 原料（樹脂類他） |         | 172,354t       |
|       | 副資材      | 段ボール    | 35,026t        |
|       |          | 包装ポリ    | 2,984t         |
|       | その他      | 潤滑油     | 11,659L        |
|       |          | シンナー    | 243,320L       |
|       |          | 紙       | 2,511,000枚     |

|        |        |          |          |
|--------|--------|----------|----------|
| OUTPUT | 製品     | 製品生産重量   | 185,489t |
|        |        | 出荷トラック台数 | 154,796台 |
|        | 廃棄物    |          | 24,985t  |
|        | 環境汚染物質 | 煤塵       | 145kg    |
|        |        | NOx      | 12,859kg |
|        |        | BOD      | 1,399kg  |
|        |        | COD      | 15,522kg |
|        |        | SS       | 7,367kg  |

## 物流部門2018年度データ（年間生産値）

| INPUT |         |               |  |
|-------|---------|---------------|--|
| エネルギー | 電力      | 18,041,604kWh |  |
|       | 化石エネルギー | 2,649,559MJ   |  |
| 水資源   | 上水      | 27,253m³      |  |
| その他   | 紙       | 8,931,913枚    |  |

| OUTPUT |      |
|--------|------|
| 廃棄物    | 484t |

## オフィス部門2018年度データ（年間生産値）

| INPUT |    |              |  |
|-------|----|--------------|--|
| エネルギー | 電力 | 2,759,662kWh |  |
|       | 上水 | 2,753m³      |  |
| その他   | 紙  | 4,932,000枚   |  |

| OUTPUT |      |
|--------|------|
| 廃棄物    | 110t |



第三者によるコメント



崎田 裕子 様     ジャーナリスト・環境カウンセラー

出版社の雑誌編集者を経て、現職。環境・エネルギー分野を中心に持続可能な循環型社会の実現に取り組む、NGO活動や環境学習の推進にも広く携わる。中央環境審議会や総合資源エネルギー調査会などの審議に参画。東京2020大会組織委員会「街づくり・持続可能性専門委員会」委員。

主催した消費者向け3Rトークショーに参加いただいた社員の方が、ある日、全国から集まることもエコクラブ会員を前に、エコトレーについて熱心に語っておられ、「へえー」という驚きに満ちた声に包まれていました。1990年から実施しておられるトレーtoトレーの循環システムですが、初めて知った人の驚きは今でも大きいものがあります。そんな先進的ビジネスモデルでプラスチック容器を提供してこられた御社の意志をもっともっと社会に広げて、トレーの店頭回収率30%を10年後には倍にしたい、という思いが沸き上がりました。

海洋プラスチック対策に向けた世界の潮流の中で、中央環境審議会「プラスチック資源循環戦略」小委員会も、2019年3月に日本の戦略案をまとめました。私も参加しましたが、「使い捨てプラスチック容器包装」削減に向けてレジ袋有料化義務化と共に、2030年までに累積25%の排出抑制、リユース・リサイクル率は2030年に60%、2035年には100%めざす方向なども示しました。食品安全に貢献し、個包装化を支える容器ですが、国民一人当たり廃棄量が世界2位という状況踏まえ、再生資源やバイオマスプラなど素材の選択含めて3R徹底を呼び掛けています。

消費者自身のライフスタイル見直しも重要です。事業者の創意工夫や技術力との連携で、SDGs目標12「つくる責任、使う責任」を共創する持続可能な未来に向けて、常に世界を驚かせ、リードしてくださることを期待しています。



エフピコが生まれ育った福山が誇る鞆の浦の自然は、ここを訪れるたくさんの人の心を癒してくれます。この地に滞在した宮崎駿監督が『崖の上のポニョ』の舞台の着想を得たというのは有名な話ですが、鞆の浦の豊かな自然は人の心の奥底に眠る不思議な力を呼び覚ましてくれるのかもしれません。瀬戸内海の穏やかな海と青く澄んだ空は福山だけのものではなく、日本のみならず世界の宝物と言えるでしょう。

誰もが美しい海を守りたいと思っています。そのために、エフピコ社員ならばこんな風に考えます。「どうすればもっと多くの方が使用済み食品容器をスーパーマーケットの回収ボックスに入れてくださるだろうか…。」鞆の浦の風景が宮崎監督の心を動かしたように、これからもエフピコもその思いをお客様の心にお届けする活動を地道に続けてまいります。

「エフピコレポート2019」を最後までご覧いただき、誠にありがとうございます。内容の継続的な改善のためにも、当レポートに添えてありますアンケートに是非ともご協力いただきますようお願い申し上げます。

2019年6月  
環境対策室    ジェネラルマネージャー  
富樫英治

|                                                |                                                               |
|------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------|
| <div>エフピコレポート2019</div> <div>発行日:2019年6月</div> | 編集方針                                                          |
|                                                | エフピコらしさを皆様にご理解いただけるよう、各活動の実績、これからエフピコが目指す方向性を明確に記載するよう心がけました。 |
|                                                | CSRに関わるレポートの作成にあたっては、環境省の「環境報告ガイドライン（2018年）」を参考にしました。         |
|                                                | 対象期間：2018年4月1日～2019年3月31日                                     |
|                                                | 対象範囲：株式会社エフピコ、およびエフピコグループ                                     |

制作部門・問い合わせ先    **株式会社エフピコ 環境対策室**  
〒163-6036 東京都新宿区西新宿六丁目8番1号    新宿オークタワー（総合受付36階）  
TEL 03-5325-7809    FAX 03-5325-7811    E-mail：Env-FP@fpco-net.co.jp    ホームページ：https://www.fpco.jp/

エフピコのあゆみ

|      |     |                                                          |      |     |                                                             |
|------|-----|----------------------------------------------------------|------|-----|-------------------------------------------------------------|
| 1962 | 7月  | 福山パール紙工(株)設立。広島県福山市古宮町(現在の霞町)に福山本社を設置し、PSP成形加工を開始        | 2006 | 10月 | 就労継続支援A型子会社を目的とする広島愛バック(株)(現エフピコ愛バック(株))設立、以後各地に愛バックの事業所を設置 |
| 1972 | 4月  | 福山配送センター(広島県福山市)を開設、以後各地に配送センターを設置                       | 2007 | 4月  | 「第1回容器包装3R推進環境大臣賞」にて『製品部門最優秀賞』受賞                            |
| 1976 | 6月  | 自社製品の展示会「パールフェア(現エフピコフェア)」第1回目を開催                        |      | 2月  | 「エコマークアワード2010」にて『金賞』受賞                                     |
| 1979 | 7月  | 配送体制強化のためエフピコ物流(株)を設立                                    | 2011 | 4月  | 環境大臣より「エコファースト企業」として認定を受ける                                  |
| 1980 | 1月  | トレー容器のゴミ処理問題が発生、使用済みトレーの回収をいち早く開始する                      |      | 12月 | 再生PET容器「エコAPET」が(財)日本環境協会よりエコマーク商品認定を取得                     |
| 1981 | 6月  | 食品容器のファッション化に対応して、カラー食品容器の製造販売を開始                        | 2012 | 11月 | PET容器では世界で初となるPET2軸延伸製品を上市                                  |
| 1983 | 4月  | 東京支店(東京都練馬区)を開設                                          | 2013 | 11月 | 代表取締役会長小松安弘が『旭日重光章』を受章                                      |
| 1984 | 5月  | 代表取締役社長(当時)小松安弘がPSP成形加工工業組合理事長に就任                        |      | 8月  | 福山クロストックセンターを稼働開始(広島県福山市)                                   |
|      | 2月  | 大阪支店(大阪府大阪市)を開設    2013年5月、現所在地(大阪市北区中之島)に移転             | 2014 | 12月 | エフピコ総合研究所・人材開発研修センター竣工(広島県福山市)                              |
| 1985 | 11月 | 関東工場(茨城県八千代町)稼働、以後各地に生産工場を設置                             |      | 3月  | 経済産業省より「ダイバーシティ経営企業100選」に選出                                 |
| 1989 | 1月  | CIを導入、商号を株式会社エフピコに改める                                    |      | 5月  | 経済産業省と東京証券取引所が選ぶ「攻めのIT銘柄」に選定                                |
|      | 11月 | 広島証券取引所に株式上場                                             | 2015 | 11月 | 経済産業省主催「第6回ものづくり日本大賞(製品・技術開発部門)」優秀賞受賞                       |
| 1990 | 9月  | エフピコ方式のリサイクルスタート                                         |      | 12月 | 地球温暖化防止活動環境大臣表彰(対策活動実践・普及部門)受賞                              |
| 1991 | 2月  | 大阪証券取引所市場第二部に株式上場                                        |      |     | PETボトルリサイクルからエコAPET製造までの一貫生産拠点「中部エコペット工場」稼働                 |
|      | 11月 | 「エコトレー」が業界初のエコマーク認定                                      | 2016 | 3月  | 代表取締役会長小松安弘が、「福山市名誉市民」に推戴される                                |
| 1993 | 3月  | (財)クリーン・ジャパン・センター主催「再資源化貢献企業表彰事業」にて『クリーン・ジャパン・センター会長賞』受賞 |      | 1月  | 茨城県筑西市に「ワンルーム社員寮Pico House 1号館」竣工                           |
| 1997 | 5月  | 代表取締役社長(当時)小松安弘が『藍綬褒章』を受章                                |      | 4月  | 岐阜県安八郡輪之内町に「ワンルーム社員寮Pico House 2号館」竣工                       |
| 2000 | 1月  | 特例子会社(株)ダックス四国本社工場(高知県南国市)を竣工、以後各地に特例子会社の事業所を設置          | 2017 | 5月  | 創業者 小松安弘永眠                                                  |
|      | 3月  | 東京証券取引所市場第二部に株式上場                                        |      | 10月 | 関東エコペット工場稼働                                                 |
| 2001 | 11月 | 東京支店を東京本社に昇格し、福山、東京2本社制に                                 |      | 1月  | エフピコアルライト本社工場竣工                                             |
| 2003 | 7月  | 東日本ハブセンター(茨城県八千代町)完工                                     | 2018 | 11月 | 広島営業所新社屋竣工                                                  |
| 2005 | 9月  | 東京証券取引所市場及び大阪証券取引所市場第一部に株式上場                             |      | 12月 | 平成30年度「スポーツエールカンパニー」認定(スポーツ庁)                               |



# FPCO Report 2019

To be a company that links  
people with people, people with nature,  
and companies with society.



株式会社エフピコ

福山本社 〒721-8607 広島県福山市曙町1-13-15

TEL (084) 953-1145

東京本社 〒163-6036 東京都新宿区西新宿6-8-1 新宿オークタワー36F

TEL (03) 5320-0717

大阪支店 〒530-0005 大阪府大阪市北区中之島3-6-32 ダイビル本館22F

TEL (06) 6441-2468

営業所 札幌、仙台、新潟、静岡、北陸、名古屋、広島、四国、福岡

■ ホームページ <https://www.fpc.jp/>

■ eメール [Env-FP@fpc-net.co.jp](mailto:Env-FP@fpc-net.co.jp)

